

# 淑徳大学アジア国際社会福祉研究所

アジア仏教社会福祉学術交流センター

2016 年度

年 報

第 1 号

2018 年 3 月 1 日

Shukutoku University

Asian Research Institute for International Social Work (ARIISW)

Asian Center for Buddhist Social Work Research Exchange (ACBsw)

# 目 次

巻頭言	所長 秋元 樹	iii
寄稿	学長 磯岡 哲也	iv
特別寄稿	最高顧問 長谷川匡俊	v
1. 設立経緯		
(1) アジア仏教社会福祉学術交流センター		1
(2) アジア国際社会福祉研究所		5
2. 人 員		6
3. 年間活動記録(時系列)		7
4. 会 議(研究所内)		
(1) アジア国際社会福祉研究所運営委員会		10
(2) ビジティング・リサーチャー論博プログラム選考委員会		11
(3) 所員会議		11
5. 出 張		28
6. 来訪者		32
7. 分野別活動		33
8. ビジティング・リサーチャー論博プログラム		35
9. 文部科学省 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業		
(1) 構想の概要		41
【研究プロジェクト名】アジアのソーシャルワークにおける仏教の可能性に関する総合的研究		
(2) 研究テーマ		
①【研究テーマ1】アジアにおけるソーシャルワークと仏教に関するリサーチ		42
②【研究テーマ2】日本の地域社会におけるソーシャルワークと仏教の協働連携モデルの開発		45
10. 国際学術フォーラム		47
11. 収集資料		52
12. 広 報		52
13. 経 費(予算・決算)		53
14. 2016年度全体総括	所長 秋元 樹	53
15. 資 料		
(1) 国際共同研究、他国大学等への協力、講演、研究報告、国際組織への貢献、出版物など		54
(2) 淑徳大学アジア国際社会福祉研究所関係規程類		57



# 巻 頭 言



淑徳大学アジア国際社会福祉研究所  
所 長 秋 元 樹

夢は「世界で一つのものになる」こと、「アジア及び世界の国際ソーシャルワーク研究の前進に努め、ソーシャルワークを世界のものにする、第3ステージへ導くことに貢献する」をミッションとする。

当面のゴールは「アジア諸国における“仏教ソーシャルワーク”研究交流のハブになる」こと、「日本国内の国際ソーシャルワーク研究のハブになる」ことである。前者の鍵は「各国をまとめ導くテーマを打ち出せるか？」であり、後者のそれは「国内国際社会福祉研究者のコミュニティをつくれるか？」である。組織戦略といってもよい。

敢えて淑徳のためとは言まい。“ハブ”の言葉すら学内用語としよう。それを口にするや他の人、組織（国内の競合う他大学、淑徳の名も知らぬ海外の大学等）は本気で協働する関心は失うだろう。より大きい、普遍的なゴール、ミッション、夢であるが故に他は共に働こうというのである。もちろん、これらの実現に向けて働き、達成するならば淑徳の名は敬意と評判を得ることは間違いない。

なぜ経営も易しくない現在の大学において、「今日の学生の教育にどう役立つか」「大学の収入にどう貢献するか」といった問いが向けられるに最もふさわしくない国際分野の研究所などというものが今設立されるのか？3点を思う。第1点は学祖長谷川良信の念とその承継である。学祖は今から100年ほど前に、アメリカ・ヨーロッパ・中国そしてブラジルに目をやり、足を運んだ。学生には「若者よ、世界に目を向けよ」と呼びかけた。現理事長は建学50周年、学祖50回忌を期に、「学祖に続こう—地域から世界へ」と書き、記念国際学術フォーラムを開催し、本研究所設立を導いた。そもそも大学というところは、何らかの夢、理念、理想、ミッションを実現するために作られるものである。少なくとも歴史的にはそうだった。

第2点はより直接的組織経営判断である。現在のグローバリゼーションのもと「国際」に目をやらずに済ますわけには行くまい。国の舵取り、時々の外部評価を見れば明らかであろう。さらに建学50周年を迎え、次の50年を視野に入れての舵取りであるとも読める。

第3点は大学における研究の位置づけである。国はアメリカにならない研究大学と教育大学の区別を打ち出したが、少なくとも日本においては研究のファクターを落とした大学が敬意を持って大学と評価されることは難しい。世間的には、各種学校との評価を得ることとなろう。大巖寺は学林、学問寺であった。（以上第1～3点については秋元樹「淑徳、アジアにおけるソーシャルワーク研究のハブになる」『アップ・トゥー・デート』No.37淑徳大学長谷川仏教文化研究所2014 pp.13-17参照）

アジア国際社会福祉研究所はかけがえのない豊かな潜在性を持っていると思われる。生後1歳の赤子をどうかわいがり育てるかは一とえにこれを生んだ法人、大学にかかっている。

2018年1月29日

## 『アジア国際社会福祉研究所年報』刊行に際して

淑徳大学  
学長 磯岡 哲也



このたび、2016（平成28）年に設立したアジア国際社会福祉研究所の年報が発刊されましたことは、まことに喜ばしく、学長としてこころよりお祝いたします。アジア国際社会福祉研究所の目的は、アジア及び世界における国際社会福祉研究の向上に寄与するとともに、研究成果の学生還元、社会還元であります。ご案内のとおり、本研究所の活動分野は多岐にわたり、国際共同研究、国際会議・セミナー・ワークショップ、主として東南アジア地域での人的・組織的交流、人材養成、研究会の開催、資料収集と供与、国際組織への貢献、他国大学支援、研究成果の発信・出版、研究基盤の形成その他となっております。

これらの目的や活動のモチーフは、淑徳大学がアジアにおける仏教ソーシャルワークのハブになることであり、そのために、上記の活動以外にも、ビジティング・リサーチャー博論プログラム、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業、国際学術フォーラムなどに、所長をはじめ、研究所の皆さんは高いモラルを有しつつ精力的に取り組んでこられました。本年報は、その軌跡と成果がまとめられており、本学のすべての教職員は、本年報からまなぶべき点が少なくないものと存じます。

さて、淑徳大学では2018年度より新たに5カ年の中期計画を策定しております。このなかで「教育の改革・充実」の「研究活動」として、次のような文章があります。

大学の一つの使命でもある「研究活動」に積極的に取り組み、この成果を本学の教育、さらには社会へ還元することを推進する。特に本学では社会にアピール、還元できる研究を行い、取り組んでいる研究が教育と循環できるようにする。

また、重点施策項目⑤：(8)「研究・社会貢献への取組み」および【到達目標】のなかで次のようにあります。

国内外にかかわらず、アジア国際社会福祉研究所を中心とした、アジアのソーシャルワーク推進への協力、海外大学との交流協定における協力体制の推進と連携を図る。

【到達目標】 国内外でのソーシャルワーク、海外提携大学との連携が強化されている。

研究と教育との循環の構築、海外提携大学との連携の強化などは大切であり、とくに、大学間の連携のなかで東南アジア地域からの留学生受け入れの準備や教育体制の整備は急務となっております。留学生の主管は国際交流センターですが、東南アジア地域における海外大学との連携やソーシャルワークをテーマにした教育面での大学間交流については、アジア国際社会福祉研究所が先行して獲得された知見を活かしていただき、ご支援をいただければ幸いです。

これまでの取り組みに敬意を表し、かつ新しい期待を込めて、本研究所がさらなる飛躍をなされますことをおおいに祈念して擲筆いたします。

## アジア国際社会福祉研究所年報の発刊に寄せて

淑徳大学アジア国際社会福祉研究所

最高顧問 長谷川 匡俊  
(大乘淑徳学園理事長)



2015年度は本学にとって創立50周年という画期的な年でした。その記念事業の一環として、日本仏教社会福祉学会第50回大会を招致し、「アジアのソーシャルワークにおける仏教の役割」をテーマに講演・シンポジウムが行われ、さらに本学独自の国際ワークショップを実施いたしました。

この年には、幸いにも文部科学省の「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に本学が申請した「アジアのソーシャルワークにおける仏教の可能性に関する総合的研究」が採択され、この方面の研究基盤形成に大きく踏み出す一歩となったのでした。その証が、後述の2016年度における本研究所の発足でもあります。

想い起せば、本学大学院社会福祉学研究科社会福祉学専攻が開学されたのは1989年4月のことです。これに先立つ設置認可申請にともなって、文部省大学設置審議会の現地調査・ヒヤリングがありました。そのなかで、担当の専門委員から、およそこのような発言があったことを私は鮮明に覚えています。話題が研究活動に及んだ時のことです。「淑徳さんは仏教系の大学ですよ。たとえば東南アジアの仏教国などと学術交流するような計画はありませんか」と質問され、予期せぬ問いに、那須学長以下、皆顔を見合わせるばかりで、戸惑いを隠せませんでした。そこで当時、事務局長を兼務して、学長の指示を受けながら申請業務に当たっていた私の方から、「おっしゃる通り、仏教系の大学として、仏教社会福祉に関する教育研究には力を入れて行く方針ですが、ただ今お話のあった学術交流などについては、今後の課題とさせていただきたいと思います」と答えて、その場を引き取るような形となりました。それ以来、いつの日かチャンスがあれば、取り組んでみたい研究課題だと思い続けてきたことが、めぐり巡って本研究所の設立に至ったことは、まことに仏縁の賜物というよりほかはありません。

本研究所設立の直接的な契機は、前APASWE会長の秋元樹先生との出会いからでした。ベトナム国家大学社会科学人文学部（ハノイ）の研究グループからAPASWE会長のもとに国際共同研究「ソーシャルワークにおける仏教の役割」の提案があり、そのパートナーとして紹介と要請があり、これに応えるかたちで始まった3年間の研究実績をベースとして、長谷川仏教文化研究所に「アジア仏教社会福祉学術交流センター」を設置したことによります。先の研究基盤形成支援事業に採択されたのも、こうした経験と実績があつたことです。

改めて思うに、このセンターは、上記の社会福祉学研究科設置の経緯にうかがわれるような、「今後の課題」に応えたものであって、それを中核にし、さらに広がりを持たせた本格的な研究組織が本研究所であります。皆さまのご理解とご支援・ご協力を切にお願い申し上げ、併せて秋元所長をはじめ、優秀にして且つ抜群の行動力を有するスタッフ各位に、格別の敬意と期待を込めてご挨拶いたします。



## 1. 設立経緯

### (1) アジア仏教社会福祉学術交流センター (2014年4月1日設立)

#### ① 前 史

2012年1月26日、秋元樹アジア太平洋ソーシャルワーク教育連盟 (The Asian and Pacific Association for Social Work Education <APASWE>) 会長から長谷川匡俊淑徳大学学長に対して、Prof. Dr. Nguyen Hoi Loan ベトナム国家大学社会科学人文学部 (ハノイ) (The University of Social Sciences and Humanities: 以下、USSHと略す) 社会学部ソーシャルワーク学科長より、「ソーシャルワークにおける仏教の役割 (The Participation of Buddhism in Social Work)」をテーマとする共同研究の申し入れがある旨が伝えられ、2月22日に Nguyen Hoi Loan 学科長からの文書がファクシミリで転送されてきた。その後、数回の交渉を経て、3月20日から23日にかけて秋元樹 APASWE 会長と淑徳大学からは田宮仁総合福祉学部教授、渋谷哲総合福祉学部准教授、藤森雄介国際コミュニケーション学部准教授が USSH を訪問した。

USSH からは Nguyen Van Kim 副学長、Nguyen Kim Hoa 社会学部長、Nguyen Hoi Loan ソーシャルワーク学科長、ベトナム政府宗教監督庁係官同席のもとで話し合いの結果、淑徳大学長谷川仏教文化研究所 (淑徳チーム)・USSH チーム・日本社会事業大学社会事業研究所アジア福祉創造センター (Asian Center for Welfare in Society <ACWeS>)・APASWE の4者による3年計画の共同研究「ソーシャルワークにおける仏教の役割—日本・ベトナム比較研究」(ACWeS/APASWE 事業名: 宗教とソーシャルワーク～仏教の場合) がスタートすることになった。7月には淑徳チームが第1回ハノイ訪問調査、8月には USSH チームが来日して合同ワークショップを開催、11月に淑徳チームが第2回ハノイ訪問調査を行った。最終日11月26日には、秋元樹 APASWE 会長立会いのもと USSH と淑徳大学との学術連携協定書 (Memorandum of Understanding <MOU>) の調印・交換を行った。

2014年1月にはスリランカの仏教界最長老を団長とし大臣2名、仏教宗教省事務次官その他を含む準国賓級訪問団が来校した。そこで、仏教ソーシャルワーク教育学院 (The Institute of Social Work Education for Buddhism Monks <ISWEBM>) 設立等の協力依頼がなされ、同意した。

あたかも、2015年は淑徳大学創立50周年・長谷川良信学祖50回忌であり、これを契機としてアジア・国際・ソーシャルワークをキーワードにした研究機関を学内に設置すべきとの機運が高まった。

#### ② 設 立

2014年4月1日、淑徳大学長谷川仏教文化研究所 (長谷川匡俊所長) の中に秋元樹 (元アジア太平洋ソーシャルワーク教育連盟 <APASWE> 会長、元国際ソーシャルワーク学校連盟 <The International Association of Schools of Social Work <IASSW> 副会長、日本女子大学名誉教授) を迎えて、アジア仏教社会福祉学術交流センター (Asian Center for Social Work Research: 以下、センターと略す) が誕生した。

このセンターのミッションは二つであり、その一つはアジア—仏教—社会福祉のネットワークを構築し、アジアにおける仏教ソーシャルワーク研究のハブとなること。二つ目は仏教ソーシャルワーク研究を進めることを通して、アジアと世界の社会福祉研究教育の発展に寄与することである。また、このミッションのもとで9分野 (1. 国際共同研究 2. 国際会議・セミナー・ワークショップ等の開催 3. 人的・組織的交流 4. 人材養成への協力 5. 研究会の組織 6. 図書・文献資料の収集・提供 7. 国際組織への貢献 8. 他国大学へのサポート 9. 書籍・報告書等の出版) の活動を開始した。これらは、その後開設されるアジア国際社会福祉研究所 (以下、研究所と略す) に引き継がれることとなった。



### ③ 活 動

2014年度の主な活動は、ゼロから始まるセンターの概念的組織的枠組みを構築することと2015年に開催の淑徳大学創立50周年記念国際学術フォーラム（以下、国際学術フォーラムと略す）の計画準備であった。

2014年

- 4月1日 アジア仏教社会福祉学術交流センタースタート  
淑徳大学創立50周年を見据え、長谷川仏教文化研究所にセンターを設立
- 5月 ソーシャルワーク原論自主研究会スタート。
- 6月 Practice-based Research (実践に基づく調査研究)「仏教ソーシャルワークカリキュラム開発」(科学研究費補助金) 始動。
- 9月 スリランカペラデニヤ大学教授、仏教パーリー大学副学長、ネパールルンビニ開発財団副会長ほかから成る訪問団受け入れ。

2014年10月～ 国際学術フォーラムへ向けて一種蒔き

- 2015年9月
  - ・学祖「TOGETHER WITH HIM: The Life of Ryoushin Hasegawa」英語版発刊に協力。
  - ・研究所設立へ向けて準備。
  - ・大学院連携ビジティング・リサーチャー論博プログラム（以下、論博プログラムと略す）準備。
  - ・国際学術フォーラムへ向けての準備。

2014年10月 5ヶ国調査「アジアにおける仏教“ソーシャルワーク”活動」開始（スリランカ、ベトナム、ミャンマー、タイ、ネパール）

- 11月 Practice-based Research (実践に基づく調査研究)「仏教ソーシャルワークカリキュラム開発」サブプロジェクト現地調査「センサス」開始。
- 12月 上記5ヶ国調査実施に向けて、ルンビニ（ネパール）ワークショップ「仏教ソーシャルワーク教育」を組織、参加。

また、学内への広報活動として学内ネットワークS-Naviを通して「アジア仏教社会福祉学術交流センターKARA」の配信を始めた。

2015年度は、6月18日に文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（以下、支援事業と略す）（研究プロジェクト名：アジアのソーシャルワークにおける仏教の可能性に関する総合的研究）」が採択され、センターにこれの実施担当が求められ、それが主な活動の一つとなった。

支援事業の研究テーマは二つあり、一つは「アジアにおけるソーシャルワークと仏教に関するリサーチ（海外リサーチ）」、二つ目は「日本の地域社会におけるソーシャルワークと仏教の協働連携モデルの開発（国内開発）」である。2015年度の成果として、「海外リサーチ」は淑徳大学創立50周年記念事業に関連して、10月8日に三井ガーデンホテル千葉において、「アジアにおける仏教“ソーシャルワーク”活動の現状」をテーマにワークショップを開催した。ついで翌10月9日に本学に於いて「仏教“ソーシャルワーク”と西洋専門職ソーシャルワーク 一次の第一歩—(Buddhist “Social Work” and Western-rooted Professional Social Work -The next first step-)」をテーマに国際学術フォーラムを開催した。

「国内開発」は、採択に先立って行っていた東日本大震災における仏教が果たした役割に関する3種類の調査報告書を刊行した。次に情報共有の場として、「仏教社会的実践活動プラットフォーム」をWeb上に構築するためにシステムの具体的な打合せを開始した。また、このサイトを活用していただく日本仏教各宗派関係者に向けた情報交換の機会を得て広報活動を行った。

- 2015年4月 センター研究員制度(所属研究機関を有さぬ若手研究者、海外サバティカル等での来日研究者ほかに研究のベースを提供することを主たる目的とする)スタート  
国際学術フォーラムへ関わりを深める。2014年10月の「5ヶ国調査」と11月の「実践に基づく調査研究」との融合、これらに関するセンター独自ワークショップの前日開催決定。5ヶ国調査研究報告書を発刊。
- 10月9日 国際学術フォーラム(前日にワークショップ、翌日に日本仏教社会福祉学会第50回記念大会シンポジウム)にスリランカ、ベトナム、タイ、ネパールから論者を迎える。
- 2015年10月～2016年3月 50周年成果の刈り入れの時期;「支援事業」の突如決定;研究所設立/論博プログラム開始の準備
- 2015年11月 支援事業補助金決定。  
・支援事業調査研究の計画策定、体制確立、チーム編成。  
・研究所設立へ向けて準備加速。  
・論博プログラム準備、前年度から継続を進める。
- 12月 支援事業サブプロジェクト始動、12-13日、サブプロジェクトの一つイスラムチーム「宗教とソーシャルワーク」セミナー、日本社会事業大学と共催。
- 2016年1月 国際学術フォーラム、プロシーディングズ(英文、和文)発刊。
- 2月～3月 中国、モンゴル、ミャンマー、ラオスチーム現地訪問。
- 3月 支援事業サブプロジェクト「イスラムとソーシャルワーク」報告書(英文)発刊。12月セミナープロシーディングズ(和文)日本社会事業大学により発刊。

この間のスタッフ(センター長のみ)は、日常的に、A)国際共同研究(準備、現地調査、モニタリングその他)および他国大学等への協力 B)研究成果の発信、交流(各国、各国際会議の招待を受けレクチャー、報告) C)ソーシャルワーク国際組織への貢献(IASSW/IFSW/ICSW世界会議国際運営委員会委員、IASSW、APASWE理事ほか)の諸活動に従事している。これらに関わる海外出張のリストは、「p.54 15.資料(1)④アジア国際社会福祉研究所 設立以前」を参照。

また、センターから研究所設置へ向けて、2015年7月8日に法人本部から理事長、常務理事、事務局長が、大学から学長(代理副学長)、大学事務局長ほかの出席による会議で、所長・総括研究員・研究スタッフ(専任2名)・事務スタッフ(専任1名)、センター長+数名の非常勤スタッフの体制を含めた大枠の承認がなされた。これにより、2015年10月1日に研究員1名を採用した。研究所設立に向けては、設立準備室等は用意されなかったが、研究所規程等は2016年4月に向けて整備された。

### アジア国際社会福祉研究所設立時の最大の2課題

秋元 樹

#### 1. 研究員の身分

(1) 研究員の身分を教員(Teachers)でも職員(事務)でもない新たな第3の系列、研究員(Researchers)とすること、その職位、職務、待遇等について以下のようにすることの議論が準備段階でなされた。

- ① 学部教員と研究所研究員とどちらが上位の職位とは見ない。職名、職務が異なるのみである。
- ② 職名は、研究所にあっては、統括研究員-上級研究員-主任研究員とし、学部教員の教授-准教授-助教とはしない。

- ③ 学部教員の職務の中心が学生の授業・直接的教育をすることであるのに対し、研究員の職務の中心は国際共同研究その他研究所諸活動を企画、実施、研究、管理運営を行なうことである。
- ④ したがって採用／昇格基準も異なる。学部教員が論文出版件数等業績及び授業の遂行能力等を主な基準とするのに対し、研究員には、論文出版件数等業績（学部教員に求めるものとは異なる）に加え、一般企業等に最低2年の勤続経験のあること、海外に最低2年の滞在経験のあること、国際共同研究、国際会議／セミナー等を企画、実施、運営（トラブル処理を含む）ができること、原則としてある程度の英語能力を要すること等々を主な基準として求める。
- ⑤ 大学の同じ人事委員会制度を用いるが、それぞれの委員会開催にあたって、その委員会が学部教員の基準に基づくものであるか研究所研究員の基準に基づくものであるかが冒頭にあきらかにされた上、それぞれの基準で審査されるべきこと。
- ⑥ 給与・待遇は学部教員の倍としあるいは勤務形態、職務内容および遂行方法・課程は学部教員がうらやむようなものとする。理由は研究所の研究レベルと学内および社会におけるステータスの維持、向上のためである。日本では特に社会科学系にあっては、一般に研究所は学部より一段下あるいは中二階的存在と見なす風潮が主流である。人材の研究所→学部の移動はあっても逆の学部→研究所の移動はアメリカ等とは異なり皆無に近い。学部等のポストが見つからない者が一時的、腰掛け的に研究所に応募、隙あらば数年で抜けていく。研究所は苦勞して素晴らしい人材を発掘しリクルートしてきても、その人材が育つか育たないうちに学内外の学部の方に持って行かれてしまう。優秀であればあるほど然り。これで立派な研究所が育つはずはない。
- (2) ただし、研究所設立最終段階で、文科省からの縛りで人事は教員と事務員の2系列でなければならず、教員としない限り人件費半額補助が出ないので第3の新系列＝研究員（Researchers）は大学としては不可、研究員は「教員」にカテゴライズされざるをえずとされた。よって研究所として統括研究員－上級研究員－主任研究員を用いることは許されたが、大学としては研究所教授－准教授－助教の職名を用いることになり、それぞれは別の独立した系列ではなく相互にリンクされているもの（総括研究員＝教授、上級研究員＝准教授、主任研究員＝助教）とされた。（上記（1）②及び研究員規程参照）個々の研究員は時と場所によりどちらの系列の職名を用いることも可とされた。
- (3) 上記（1）のその他の項目（①、③～⑤）は⑥を除き合意され、研究員規程に入れられている。⑥の給与待遇、勤務形態等の特別扱いは認められず、学部教員に準ずるものとなっている。

## 2. 研究所事務部門の重視

- (1) 研究所の存続、発展はひとえに事務部門の充実にかかる。研究員は常に学外移動の可能性と現実性を秘める。あらゆる業務のノウハウは可能な限り研究所事務室機能の中に蓄積継承されなければならない。事務部門専任職員の異動の場合は「引き継ぎ」を通して相当程度の継承が期待できる。
- (2) 「国際」分野では海外組織との相互信頼関係から個人的ファクターが高まざるをえない。ある程度の長期継続勤務の専任事務職員配置は研究所の死活問題である。
- (3) 事務室機能が充実すればするほど、研究員が純粋研究職務に従事できる時間が膨らみ、研究所の研究本来の評価が高まる可能性を保証することとなる。vice versa

## (2) アジア国際社会福祉研究所 (2016年4月1日設立)

### ① 設 立

2016年4月1日、学部等には属さない学長直属の研究機関としてアジア国際社会福祉研究所（以下、研究所と略す）(Asian Research Institute for International Social Work <ARIISW>) が設立された。スタッフは研究所所長、アジア仏教社会福祉学術交流センター（以下、センターと略す）長（所長兼務）、研究員3名、専任事務職なしの体制で活動を開始した。また、センターは、長谷川仏教文化研究所から当研究所内に移管した。当面センターは独自のスタッフを置かず、研究所スタッフが双方の業務に携わることとした。事務スタッフは、4月1日に臨時職員1名、5月1日に専任事務職員1名（兼務：管理職）の配置があった。6月1日に専任事務職員1名を増員したが、翌年度に新設される部署の職員として採用されたもので、翌年4月にそちらに異動した。また、2017年1月に派遣スタッフ1名を増員した。

研究所のミッションは、国際ソーシャルワーク研究を通してアジア、世界のソーシャルワークの前進に貢献すること。センターのミッションは、そのうちのアジアを場として仏教ソーシャルワーク研究に特化し、そのハブとなること。活動の9分野は、前述 (p.1 1. 設立経緯 (1) ②) を継承している。

また、研究所とセンターの2層構造にした理由は、四つある。

- 1) 当初「国際社会福祉」の専門家秋元氏招聘時は「国際社会福祉」研究所設置案であったと思われるが、雇用開始時には学内の事情により当面、長谷川仏教文化研究所内アジア仏教社会福祉学術交流センターとして発足させることとなった。ただし、センターの英語名は海外のソーシャルワーク界との交流を意識し Asian Center for Social Work Research とした。
- 2) これらのことから、研究所の設立は後者（センター）の発展的解消の形と理解されるのが自然の流れであった。
- 3) ところがセンターとしての2年の活動の間にアジアの仏教国「ソーシャルワーク」研究関係者からその存在と働き（リーダー・連絡・ハブ機能）に高い評価と要望を受けたこと、またこれこそ淑徳大学の本来のミッションに合致するもの、やるべきものと考えられたことから、センター長より既存センターをそのまま研究所の中に存続させるべきこととの提言がなされた。また、英語名を本来の日本語名に沿って Asian Center for Buddhist Social Work Research Exchange <ACBsw> に変更した。
- 4) 将来、センターが成長・発展すれば研究所から独立することが望ましいとも考えられるが、アジアー仏教ーソーシャルワーク分野の現状は関心研究者数、研究蓄積、研究基盤あらゆる面から判断するにあまりに脆弱であり、センターを裸で外に置いた場合、その成長のみならず存立すら危ぶまれる。これを育て定着発展させるためには研究所の中にこれを置き、ソーシャルワーク一般およびその国際分野と接触、交流、それを通しての「栄養摂取」の機会を維持することが賢明と考えられた。

### ② 活 動

2016年度には、ビジティング・リサーチャー論博プログラムを開始した。5月にWebサイトで募集を開始し、世界各国から延べ118件の問い合わせがあり、関心の高さを伺うことができた。最終的には7ヶ国9名の応募があり、選考委員会での選考を経てワンワディ・ポンポクシン氏（タイ タマサート大学准教授）を第1期ビジティング・リサーチャーとして10月上旬に迎えた。

また、支援事業については、「海外リサーチ」について当初予定していた国々へのリサーチを展開し、ほぼ全ての対象国（ベトナム、スリランカ、タイ、ネパール、ブータン、カンボジア、ラオス、ミャンマー、モンゴル）のカウンターパートを決定して共同研究のための協力関係を構築することができた。その結果として、2017年3月22・23日に第2回国際学術フォーラムを開催し、同時にアジア仏教ソーシャルワーク研究

ネットワークが組織された。次に「国内開発」については、当初の計画に基づいて東日本大震災被災自治体の社会福祉協議会を対象としたアンケート調査を開始するとともに、情報共有の場として「仏教社会的実践活動プラットフォーム」をWeb上で構築、稼動を開始した。

2016年度の方野別活動の詳細は、「p.33 7. 方野別活動」を参照。

## 2. 人 員

### (1) 研究員

(所 長) 教 授 秋元 樹 (アジア仏教社会福祉学术交流センター長兼務)  
(所長補佐) 教 授 藤森 雄介  
(上席研究員) 准教授 郷堀 ヨゼフ  
(主任研究員) 助 教 松尾 加奈

### (2) 顧 問

(最高顧問) 理事長 長谷川 匡俊  
(顧 問) 田宮 仁  
石川 到覚

### (3) 特命研究員

教 授 村上 信

### (4) プログラム研究員

教 授 磯岡 哲也 教 授 稲垣 美加子 教 授 小川 博章 教 授 斉藤 鉄也  
教 授 渋谷 哲 教 授 西尾 孝司 教 授 松蘭 祐子 教 授 山口 光治  
准教授 山下 興一郎  
石川 到覚 稲場 圭信 新保 祐光 吉水 岳彦  
菊池 結 (～2016年10月) 劉 光鍾 (2016年7月～)  
藤田 則貴 (2016年7月～) 渡邊 義昭 (2016年7月～)  
安藤 徳明 (2016年10月～) 金 潔 (2016年12月～)

### (5) リサーチ・フェロー

安藤 徳明 (～2016年9月) 家永 祐子  
菊池 結 (2016年11月～)

### (6) アジア国際社会福祉研究所運営委員

(委員長) 学 長 足立 叡  
(副委員長) 教 授 秋元 樹  
(委 員) 教 授 田中 秀親 教 授 戸塚 法子  
教 授 千葉 浩彦 教 授 藤森 雄介  
大学事務局長 西塚 洋

### (7) ビジティング・リサーチャー論博プログラム選考委員

(委員長) 理事長 長谷川 匡俊  
(副委員長) 教授 村上 信  
(委員) 准教授 郷堀 ヨゼフ

### (8) 事務員

(課長) 相澤 修一郎 (2016年5月～)  
(事務員) 宮川 純子 (2016年6月～2017年3月)  
(事務員) 永野 淳子  
(事務員) 野中 夏奈 (2017年1月～)  
(業務委託) 菊池 結 (~2016年9月)

## 3. 年間活動記録(時系列:会議・イベント・来訪者・出張など)

### 2016年

4月5日 「アジア国際社会福祉研究所kara」No.1 刊行  
8日 第1回所員会議  
14日 第2回所員会議  
21日 第3回所員会議  
23日～25日 出張 宮城県①(藤森 雄介、渡邊 義昭)  
28日 第4回所員会議  
28日 第1回アジア国際社会福祉研究所運営委員会  
5月12日 第5回所員会議  
19日 第6回所員会議  
19日 「アジア国際社会福祉研究所kara」No.2 刊行  
20日～22日 出張 愛媛県(秋元 樹)  
26日 第7回所員会議  
6月2日 第8回所員会議  
6日～10日 出張 カンボジア①(藤森 雄介、郷堀 ヨゼフ)  
12日 日本共生科学会第8回淑徳大学東京大会に参加(報告:松尾 加奈)  
16日 第9回所員会議  
23日 第10回所員会議  
26日～30日 出張 韓国① ソーシャルワーク教育社会開発世界会議に参加  
(報告:菊池 結 参加:秋元 樹、松尾 加奈)  
7月1日 第11回所員会議  
1日 ブラジルから2教授の訪問  
5日 「アジア国際社会福祉研究所kara」No.3 刊行  
6日 臨時所員会議  
8日 第12回所員会議  
11日～20日 出張 ネパール ブータン(秋元 樹、藤森 雄介、松尾 加奈)

- 14日 ビジティング・リサーチ論博プログラム選考委員会
- 22日 第13回所員会議
- 22日～26日 出張 カンボジア② ASEAN経済共同体(AEC)主催の国際会議に参加  
(報告:郷堀 ヨゼフ)
- 26日 「アジア国際社会福祉研究所kara」No.4-2 刊行
- 27日 「アジア国際社会福祉研究所kara」No.4 刊行
- 28日 第14回所員会議
- 29日 タイから1教授と8名の修士課程院生の訪問
- 31日～6日 出張 韓国②(劉光鍾、藤田 則貴)
- 8月15日 「アジア国際社会福祉研究所kara」No.5 刊行
- 22日～28日 出張 タイ①(松藺 祐子、安藤 徳明)
- 29日～3日 出張 ミャンマー(山口 光治、松尾 加奈)
- 9月5日 出張 福島県①(藤森 雄介、渡邊 義昭)
- 5日～9日 出張 モンゴル(小川 博章、郷堀 ヨゼフ)
- 11日～17日 出張 韓国③(劉光鍾、藤田 則貴)
- 15日 第15回所員会議
- 27日～10月4日 出張 スリランカ 国際社会開発コンソーシアム アジア太平洋支部及びペラデ  
ニヤ大学による国連SDGsに関する国際会議に参加(セッション議長:秋元 樹)
- 9月29日 第16回所員会議
- 10月4日～9日 出張 ロシア アジア太平洋ソーシャルワーカーサミットに参加(報告:郷堀 ヨ  
ゼフ)
- 5日 ワンワディ・ポンボクシン氏(第1期ビジティング・リサーチ)来日
- 6日 第17回所員会議
- 6日 第2回アジア国際社会福祉研究所運営委員会
- 12日 ワンワディ・ポンボクシン訪問研究員へのオリエンテーション(プログラム全体  
の概要を説明)
- 13日 第18回所員会議
- 20日 第19回所員会議
- 20日～24日 出張 タイ②(松藺 祐子、安藤 徳明)
- 27日 第20回所員会議
- 11月1日～4日 出張 ラオス(藤森 雄介、郷堀 ヨゼフ、渋谷 哲)
- 8日 論博プログラム招聘講師ズルカルナイン・A・ハッタ氏 セッション①
- 10日 第21回所員会議
- 10日 論博プログラム招聘講師ズルカルナイン・A・ハッタ氏 セッション②③
- 11日～12日 出張 韓国④(秋元 樹、郷堀 ヨゼフ)
- 14日～15日 出張 宮城県②(藤森 雄介、渡邊 義昭)
- 15日 論博プログラム招聘講師ズルカルナイン・A・ハッタ氏 セッション④
- 16日 論博プログラム招聘講師ズルカルナイン・A・ハッタ氏 セッション⑤
- 17日 第22回所員会議
- 21日 論博プログラム招聘講師ズルカルナイン・A・ハッタ氏 セッション⑥

- 22日 論博プログラム招聘講師ズルカルナイン・A・ハッタ氏 セッション⑦
- 24日 第23回所員会議
- 24日 論博プログラム招聘講師ズルカルナイン・A・ハッタ氏 セッション⑧
- 26日 淑徳大学社会福祉学会第26会大会へ出席（問題提起：郷堀 ヨゼフ、発表：ワン  
ワディ訪問研究員）
- 28日 論博プログラム招聘講師ズルカルナイン・A・ハッタ氏 セッション⑨
- 30日 「アジア国際社会福祉研究所 kara」No.6 刊行
- 12月1日 第24回所員会議
- 2日 「アジア国際社会福祉研究所 kara」No.6-2 刊行
- 6日 スリランカから僧侶を含む5名の訪問
- 8日 第25回所員会議
- 9日 マレーシア・サバ州立大学からアディ・ファハルディン教授の訪問。
- 10日 日本社会事業大学主催の第25回環太平洋社会福祉セミナー（東京）の第1セッ  
ションを共催（発表：ワンワディ・ポンポクシン訪問研究員）
- 15日 第26回所員会議
- 16日～19日 出張 中国①（金 潔）
- 22日 第27回所員会議
- 22日 「アジア国際社会福祉研究所 kara」No.7 刊行
- 22日～23日 出張 宮城県③（藤森 雄介、渡邊 義昭）

2017年

- 1月9日～12日 出張 ベトナム（秋元 樹、松尾 加奈）
- 12日 第28回所員会議
- 19日 第29回所員会議、第1回研究員研究会
- 19日～21日 出張 岩手県①（藤森 雄介、渡邊 義昭）
- 26日 第30回所員会議
- 26日～27日 出張 宮城県④（藤森 雄介、渡邊 義昭）
- 2月2日 出張 福島県②（藤森 雄介）
- 9日 第31回所員会議
- 11日 ワンワディ・ポンポクシン訪問研究員に対し日本のソーシャルワーク事情の講義  
及び千葉療護センターを見学
- 16日 第32回所員会議
- 16日～17日 出張 宮城県⑤（藤森 雄介、渡邊 義昭）
- 20日～22日 出張 岩手県②、宮城県⑥、福島県③（藤森 雄介、渡邊 義昭）
- 23日 第33回所員会議
- 24日 「アジア国際社会福祉研究所 kara」No.8 刊行
- 27日～1日 出張 岩手県③（藤森 雄介、渡邊 義昭）
- 3月2日 第34回所員会議
- 2日～3日 出張 宮城県⑦（藤森 雄介、渡邊 義昭）



4日～7日	出張 中国②(石川 到覚、新保 祐光、金 潔)
5日～6日	出張 福島県④(藤森 雄介)
9日	第35回所員会議
10日～12日	出張 宮城県⑧ 岩手県④(藤森 雄介、渡邊 義昭)
16日	第36回所員会議
22日～23日	アジア仏教主要国を招いての第2回国際学術フォーラムを主催
24日	スリランカとの共同研究PBRの最終報告会議「フォーラム・プラス」を本研究所にて開催
24日	明治学院大学における国際シンポジウムへ出席(ワンワディ・ポンポクシン訪問研究員)
30日	第37回所員会議、第2回研究員研究会

## 4. 会 議(研究所内)

### (1) アジア国際社会福祉研究所運営委員会

#### ・第1回運営委員会

- (日 時) 2016年4月28日 15時00分～16時00分  
(場 所) 淑水記念館2階 同窓会会議室  
(参加者) 足立 勲、田中 秀親、千葉 浩彦、戸塚 法子、西塚 洋  
秋元 樹、藤森 雄介  
(オブザーバー) 長谷川 匡俊  
(議 題) 1. 辞令の交付  
2. アジア国際社会福祉研究所の概要説明  
3. プログラム研究員・訪問研究員について  
4. 大学院連携プログラムについて  
5. その他

#### ・第2回運営委員会

- (日 時) 2016年10月6日 15時30分～16時30分  
(場 所) 淑水記念館2階 同窓会会議室  
(参加者) 足立 勲、田中 秀親、戸塚 法子、西塚 洋  
秋元 樹、藤森 雄介、  
(オブザーバー) 長谷川 匡俊、村上 信  
(事 務) 相澤 修一郎  
(議 題) 1. アジア国際社会福祉研究所の活動状況  
2. 大学院連携プログラムについて  
3. 支援事業関連「海外リサーチ」について  
4. 支援事業関連「国内開発」について  
5. その他

## (2) ビジティング・リサーチャー論博プログラム選考委員会

(日 時) 2016年7月14日 14時～15時30分

(場 所) アジア国際社会福祉研究所

(参加者) 長谷川 匡俊、村上 信、郷堀 ヨゼフ

(議 題) 1. 平成28年度ビジティング・リサーチャー論博プログラムのビジティング・リサーチャー1名の選考

## (3) 所員会議

### ・第1回所員会議

(日 時) 2016年4月8日 10時00分～12時20分

(場 所) アジア国際社会福祉研究所

(参加者) 秋元 樹、藤森 雄介、郷堀 ヨゼフ、松尾 加奈  
菊池 結、永野 淳子、菅谷 厚子(オブザーバー)

(議 題) 1. 平成28年度 研究所の組織体制  
2. 平成28年度 研究所の運営に関する確認事項  
3. その他  
4. スケジュール確認

### ・第2回所員会議

(日 時) 2016年4月14日 13時00分～14時45分

(場 所) アジア国際社会福祉研究所

(参加者) 秋元 樹、藤森 雄介、郷堀 ヨゼフ、松尾 加奈  
菊池 結、永野 淳子、菅谷 厚子(オブザーバー)

(議 題) 1. 議事録の確認  
2. 運営委員会について  
3. 6月の韓国出張について  
4. 研究所の略称について  
5. 大学院プログラムの件について  
6. 開所式の経費(経理処理)について  
7. 国外調査の危機管理(規定)について  
8. 大学間・研究機関間の国際関係(契約・協定)について  
9. 研究所所蔵の書籍(管理)について  
10. HP、サーバーについて  
11. 広報について  
12. その他  
13. スケジュールの確認

・第3回所員会議

- (日 時) 2016年4月21日 13時00分～15時00分  
(場 所) アジア国際社会福祉研究所  
(参加者) 秋元 樹、藤森 雄介、郷堀 ヨゼフ、松尾 加奈  
菊池 結、永野 淳子、菅谷 厚子(オブザーバー)  
(議 題) 1. 本日の予定について  
2. 前回議事録の確認  
3. 掲示板の選定について  
4. 国際福祉研究所用封筒等の作成物について  
5. 国際福祉研究所のパンフレットについて  
6. サーバーのレンタルについて  
7. アジア国際社会福祉研究所平成28年度予算の概要  
8. 研究所のメールアドレスについて  
9. 広報について  
10. その他  
11. スケジュールの確認

・第4回所員会議

- (日 時) 2016年4月28日 13時00分～14時50分  
(場 所) アジア国際社会福祉研究所  
(参加者) 秋元 樹、藤森 雄介、郷堀 ヨゼフ、松尾 加奈  
菊池 結、永野 淳子、菅谷 厚子(オブザーバー)  
(議 題) 1. 本日の予定について  
2. 前回議事録の確認  
3. 4月の大学運営協議会の報告  
4. 関係機関等への開所の案内について  
5. サーバーのレンタルについて  
6. 広報について  
7. ブラジルの研究者3名の研究所訪問について  
8. 韓国・ソウル会議の研究員出張費について  
9. “法人四者会談”と本日の研究所運営委員会  
10. その他  
11. スケジュールの確認

・第5回所員会議

- (日 時) 2016年5月12日 13時00分～15時00分  
(場 所) アジア国際社会福祉研究所  
(参加者) 秋元 樹、藤森 雄介、郷堀 ヨゼフ、松尾 加奈  
相澤 修一郎、菊池 結、永野 淳子

- (議 題)
1. 前回議事録の確認
  2. 「ネイティブチェック」謝金の支払い方法について
  3. 関係機関等への開所の案内について
  4. 大学院プログラム関係書類一式について
  5. 大学院プログラム情報配布について
  6. 5月の大学運営協議会について
  7. 共生科学会からの参加依頼について
  8. 淑徳大学社会福祉学会(学内学会)からの依頼について
  9. その他
  10. スケジュールの確認

・第6回所員会議

- (日 時) 2016年5月19日 13時00分～15時00分
- (場 所) アジア国際社会福祉研究所
- (参加者) 秋元 樹、藤森 雄介、郷堀 ヨゼフ、松尾 加奈  
相澤 修一郎、永野 淳子
- (議 題)
1. 前回議事録の確認
  2. 研究所の合鍵について
  3. 事務文書等のキャンパス内での周知について
  4. 相澤さんのメールアドレスについて
  5. 研究員の辞令について
  6. kara通信、内容執筆及び配信の担当について
  7. 日本人向け大学院プログラム関係書類について
  8. 大学院プログラムに関する問い合わせ状況について
  9. 淑徳大学社会福祉学会(学内学会)からの依頼について～続報～
  10. その他
  11. スケジュールの確認

・第7回所員会議

- (日 時) 2016年5月26日 13時00分～14時30分
- (場 所) アジア国際社会福祉研究所
- (参加者) 秋元 樹、藤森 雄介、郷堀 ヨゼフ、松尾 加奈  
相澤 修一郎、菊池 結、永野 淳子
- (議 題)
1. 本日の予定について
  2. 前回議事録の確認
  3. 研究所の合鍵の交換について
  4. 大学運営協議会での報告について
  5. 図書の購入手順と保管方法の再確認、及び定期購読雑誌について
  6. 研究所の諸規定の確認について
  7. 日本人向け大学院プログラム関係書類について

8. 大学院プログラムに関する問い合わせ状況について
9. 淑徳大学社会福祉学会（学内学会）からの依頼について～第3報～
10. 6/18の学園研修会について
11. その他
12. スケジュールの確認

・第8回所員会議

- (日 時) 2016年6月2日 13時00分～14時45分
- (場 所) アジア国際社会福祉研究所
- (参加者) 秋元 樹、藤森 雄介、郷堀 ヨゼフ、松尾 加奈  
相澤 修一郎、宮川 純子、菊池 結、永野 淳子
- (議 題)
1. 前回議事録の確認
  2. 宮川純子さんのメールアドレスについて
  3. 大学運営協議会での報告内容について
  4. 研究所の「自己点検・評価」について（『大学年報』、「研究計画書」等）
  5. 事務書類作成にあたっての留意事項について
  6. 研究員の委嘱状の交付について
  7. 英文パンフレットについて
  8. HPについて
  9. 大学院プログラムに関する問い合わせ状況について
  10. その他
  11. スケジュールの確認（来週の定例所員会議にかわる予定等）

・第9回所員会議

- (日 時) 2016年6月16日 13時00分～15時00分
- (場 所) アジア国際社会福祉研究所
- (参加者) 秋元 樹、藤森 雄介、郷堀 ヨゼフ、松尾 加奈  
相澤 修一郎、宮川 純子、菊池 結、永野 淳子
- (議 題)
1. 前回議事録の確認
  2. 博士号取得プログラムの研究者の在留資格について
  3. マレーシア・サバ大学 (Universiti Malaysia Sabah) と淑徳大とのMOU締結依頼について
  4. 研究所職務分担表について
  5. Visiting Researcher Fellowship Programの講師団およびアドバイザーボードについて
  6. 大学院連携講師パネルの公表について
  7. 英文パンフレットについて
  8. 研究員の委嘱状の交付について
  9. 定期購読雑誌について
  10. 大学院プログラムに関する問い合わせ状況について
  11. その他
  12. スケジュールの確認

・第10回所員会議

(日 時) 2016年6月23日 13時00分～14時30分

(場 所) アジア国際社会福祉研究所

(参加者) 秋元 樹、藤森 雄介、郷堀 ヨゼフ、松尾 加奈  
相澤 修一郎、宮川 純子、菊池 結、永野 淳子

- (議 題)
1. 本日の予定確認
  2. 前回議事録の確認
  3. カンボジアでの国際会議について
  4. 名誉研究員について
  5. Visiting Researcher Fellowship Programの講師団およびアドバイザーボードについて
  6. 研究所の大学院(総合福祉研究科)との協力について
  7. 「海外」の各国担当のプログラム研究員と研究所研究員の分担、役割等について
  8. ブラジルからの研究者来訪の件
  9. 公的研究費取扱要領について
  10. 研究員の委嘱状の交付について
  11. 7～9月、夏季休暇中の業務体制について
  12. 大学院プログラムに関する問い合わせ状況について
  13. その他
  14. スケジュールの確認

・第11回所員会議

(日 時) 2016年7月1日 10時00分～12時30分

(場 所) アジア国際社会福祉研究所

(参加者) 秋元 樹、藤森 雄介  
相澤 修一郎、宮川 純子、菊池 結

- (議 題)
1. 本日の予定確認
  2. 前回議事録の確認
  3. ビジティング・リサーチャーのリスク管理について
  4. 研究員の委嘱状の交付について
  5. 7～9月、夏季休暇中の業務体制について
  6. 大学院プログラムに関する問い合わせ状況について
  7. IASSW・IFSW・ICSW世界ソーシャルワーク社会開発会議報告について
  8. 世界のソーシャルワーク関連国際会議について
  9. その他
  10. スケジュールの確認

・臨時所員会議

(日 時) 2016年7月6日 13時00分～14:30

(場 所) アジア国際社会福祉研究所

(参加者) 秋元 樹、藤森 雄介、松尾 加奈  
相澤 修一郎、宮川 純子、菊池 結

- (議 題)
1. 本日の予定確認
  2. 前回議事録の確認
  3. プチョン・セナムッチ先生(タイ)訪問依頼について
  4. 研究所の本年度の予算について
  5. 大学連携プログラム訪問研究員の住居について
  6. ビジティング・リサーチャーのリスク管理について
  7. その他

・第12回所員会議

(日 時) 2016年7月8日 10時00分～12時00分

(場 所) アジア国際社会福祉研究所

(参加者) 秋元 樹、藤森 雄介、郷堀 ヨゼフ、松尾 加奈  
宮川 純子、菊池 結、永野 淳子

- (議 題)
1. 本日の予定確認
  2. 前回議事録の確認
  3. タイからの訪問者について(報告とロジのお願い)
  4. 福祉教員にむけた研究所ニュースレターの発送について
  5. 大学院連携プログラム訪問研究員の住居について
  6. 大学院連携プログラム訪問研究員の在留資格認定証明書申請までの今後の手続きについて
  7. 講師団/Advisory Boardのリストの修正について
  8. 大学院プログラムに関する問い合わせ状況について
  9. 大学院連携プログラム第1回コース及び講師の委嘱(雇用条件の確認、依頼状・委嘱状発行、シラバス外の依頼等)
  10. 同、選考委員会の確認
  11. 研究所「特命研究員」の委嘱状発行と研究員リストの変更
  12. ソウル世界会議報告
  13. その他
  14. スケジュールの確認

・第13回所員会議

(日 時) 2016年7月22日 10時00分～12時30分

(場 所) アジア国際社会福祉研究所

(参加者) 秋元 樹、藤森 雄介、郷堀 ヨゼフ、松尾 加奈  
相澤 修一郎、宮川 純子、菊池 結、永野 淳子

- (議 題)
1. 前回議事録の確認
  2. タイからの訪問者について(スケジュールの確認)
  3. 大学院連携プログラム選考結果について
  4. 大学院連携プログラム訪問研究員の住居手配について
  5. 訪問研究員への航空券・奨学金について

6. 訪問研究員の来日スケジュール(案)について
7. 訪問研究員の研究室について
8. 講師団への謝金について
9. 研究員、顧問への委嘱状について
10. 研究所対外発信文書(発信人名、文体等)について
11. ネパール、ブータン出張報告
12. 各種研修会について
13. その他
14. スケジュールの確認

• 第14回所員会議

- (日 時) 2016年7月28日 13時00分～14時30分
- (場 所) アジア国際社会福祉研究所
- (参加者) 秋元 樹、藤森 雄介、郷堀 ヨゼフ、松尾 加奈  
相澤 修一郎、宮川 純子、永野 淳子
- (議 題)
1. 前回議事録の確認
  2. タイからの訪問者について(スケジュールの確認)
  3. (ARIISW\_kara No.4) 第4号発信について
  4. 大学院連携プログラム関連の進捗状況について
  5. ビジティング・リサーチャー論博プログラム規定について
  6. ビジティング・リサーチャー論博プログラム関連の規定の整備について
  7. 講師団への謝金について
  8. 研究員、顧問への委嘱状について
  9. カンボジア出張報告
  10. 今後の海外出張の予定について
  11. 研究員の8月の予定について
  12. その他
  13. スケジュールの確認

• 第15回所員会議

- (日 時) 2016年9月15日 13時00分～15時00分
- (場 所) アジア国際社会福祉研究所
- (参加者) 秋元 樹、藤森 雄介、郷堀 ヨゼフ、松尾 加奈  
相澤 修一郎、宮川 純子、菊池 結、永野 淳子
- (議 題)
1. 前回議事録の確認
  2. 本日のスケジュールの確認
  3. 研究所対外文書発信者名について
  4. 大学運営協議会について
  5. 第2回研究所運営委員会の議題と事前準備について
  6. Together 213号について



7. 訪問研究員への事前連絡について
8. 10月以降のビジティング・リサーチャー論博プログラム関連のスケジュールについて
9. バングラデシュからの訪問者の件について
10. 海外からの研究所訪問者対応マニュアルについて
11. 海外出張時の危機管理マニュアルについて
12. 学内学会について
13. 8～9月の、「海外リサーチ」関連の出張報告について
14. 「国内開発」の進捗について
15. その他
16. スケジュールの確認

・第16回所員会議

- (日 時) 2016年9月29日 14時00分～15時00分
- (場 所) アジア国際社会福祉研究所
- (参加者) 藤森 雄介、郷堀 ヨゼフ、松尾 加奈  
相澤 修一郎、宮川 純子、菊池 結、永野 淳子
- (議 題) 1. 前回議事録の確認  
2. 訪問研究員の日程及び関連のスケジュールについて  
3. バングラデシュからの訪問者延期の件について  
4. 第2回研究所運営委員会の議題と事前準備について  
5. モンゴル出張報告について  
6. 「対外発信文書に関する発信者及び起案・決裁者」修正案について  
7. 海外出張に際しての経費概算書の提出について  
8. 10/29及び11/26の勤務体制について  
9. その他  
10. スケジュールの確認

・第17回所員会議

- (日 時) 2016年10月6日 13時00分～14時30分
- (場 所) アジア国際社会福祉研究所
- (参加者) 秋元 樹、藤森 雄介、郷堀 ヨゼフ、松尾 加奈  
相澤 修一郎、宮川 純子、永野 淳子
- (議 題) 1. 本日の予定  
2. 前回議事録の確認  
3. 訪問研究員の日程及び関連のスケジュールについて  
4. ビジティング・リサーチャー関連の規程について  
5. 日本社会事業大学主催、ARIISW協力開催「環太平洋セミナー」について  
6. スリランカ出張報告と海外大学支援について  
7. 第2回研究所運営委員会の議題と事前準備について  
8. 日本仏教社会福祉学会大会について

9. メールアドレスの件について
10. その他
11. スケジュールの確認

• 第18回所員会議

- (日 時) 2016年10月13日 13時00分～15時00分  
(場 所) アジア国際社会福祉研究所  
(参加者) 秋元 樹、藤森 雄介、郷堀 ヨゼフ、松尾 加奈  
相澤 修一郎、宮川 純子、永野 淳子  
(議 題) 1. 本日の予定  
2. 前回議事録の確認  
3. 第6回大学協議会について  
4. 訪問研究員の日程及び関連のスケジュールについて  
5. ビジティング・リサーチャー関連の規定について  
6. スリランカ出張報告と訪問団の日程について  
7. ロシア出張報告について  
8. その他  
9. スケジュールの確認

• 第19回所員会議

- (日 時) 2016年10月20日 13時00分～14時45分  
(場 所) アジア国際社会福祉研究所  
(参加者) 秋元 樹、藤森 雄介、郷堀 ヨゼフ、松尾 加奈  
相澤 修一郎、宮川 純子、永野 淳子  
(議 題) 1. 本日の予定  
2. 前回議事録の確認  
3. ズル先生来日関連について  
4. ビジティング・リサーチャー関連の規定について  
5. ビジティング・リサーチャー論博プログラム選考委員会について  
6. スリランカ出張報告と訪問団の日程及び、海外他大学支援、提携、協力について  
7. ロシア出張報告について  
8. その他  
9. スケジュールの確認

• 第20回所員会議

- (日 時) 2016年10月27日 13時00分～15時00分  
(場 所) アジア国際社会福祉研究所  
(参加者) 秋元 樹、藤森 雄介、郷堀 ヨゼフ、松尾 加奈  
宮川 純子、永野 淳子

- (議 題)
1. 本日の予定
  2. 前回議事録の確認
  3. ワン先生対応関連について
  4. ズル先生来日関連について
  5. ビジティング・リサーチャー関連の規程及びズル先生業務委託契約書案について
  6. ビジティング・リサーチャー論博プログラム選考委員会について
  7. タイ・マハクット大学との共同研究について
  8. 科研申請について
  9. 笹川平和財団研究員の訪問について
  10. その他
  11. スケジュールの確認

・第21回所員会議

(日 時) 2016年11月10日 13時00分～15時00分

(場 所) アジア国際社会福祉研究所

(参加者) 秋元 樹、藤森 雄介、郷堀 ヨゼフ、松尾 加奈  
宮川 純子、永野 淳子

- (議 題)
1. 本日の予定
  2. 前回議事録の確認
  3. 第7回大学協議会の報告について
  4. ワン先生対応関連について
  5. ズル先生来日関連について
  6. ビジティング・リサーチャー関連の規定及びズル先生業務委託契約書案について
  7. スリランカ訪問団関連について
  8. 国際フォーラムについて
  9. プログラム研究員の追加について
  10. ラオス出張報告について
  11. その他
  12. スケジュールの確認

・第22回所員会議

(日 時) 2016年11月17日 13時00分～15時15分

(場 所) アジア国際社会福祉研究所

(参加者) 秋元 樹、藤森 雄介、郷堀 ヨゼフ、松尾 加奈  
相澤 修一郎、宮川 純子

- (議 題)
1. 本日の予定
  2. 前回議事録の確認
  3. ワン先生関連について
  4. ズル先生関連について
  5. ビジティング・リサーチャー関連の規定及びズル先生業務委託契約書案について

6. ラオス国立大学との契約書案について
7. スリランカ訪問団関連について
8. 淑徳大学学内学会について
9. 国際フォーラムについて
10. 中国チームの出張について
11. プログラム研究員とリサーチ・フェローの変更について
12. 韓国出張報告について
13. 南三陸町社協出張について
14. その他
15. スケジュールの確認

・第23回所員会議

- (日 時) 2016年11月24日 13時00分～15時00分
- (場 所) アジア国際社会福祉研究所
- (参加者) 秋元 樹、藤森 雄介、郷堀 ヨゼフ、松尾 加奈  
相澤 修一郎、宮川 純子、永野 淳子
- (議 題) 1. 本日の予定  
2. 前回議事録の確認  
3. ワン先生関連について  
4. スリランカ訪問団関連について  
5. 学内、所内のコミュニケーションの原則について  
6. 規定、各種契約書について  
7. 次年度予算について  
8. 淑徳大学学内学会について  
9. 社事大との共催「環太平洋セミナー」について  
10. 国際フォーラムについて  
11. 中国チームの出張について  
12. プログラム研究員とリサーチ・フェローの変更について  
13. その他  
14. スケジュールの確認

・第24回所員会議

- (日 時) 2016年12月1日 13時00分～16時15分
- (場 所) アジア国際社会福祉研究所
- (参加者) 秋元 樹、藤森 雄介、松尾 加奈  
相澤 修一郎、宮川 純子
- (議 題) 1. 本日の予定  
2. 前回議事録の確認  
3. ワン先生関連について  
4. スリランカ訪問団関連について

5. マレーシア・サバ大学との連携及びアディ・ファハルディン教授の訪問について
6. ラオス及びタイの契約書について
7. 「内部監査」の実施について
8. 社事大との共催「環太平洋セミナー」について
9. 国際フォーラムについて
10. 中国チームの出張について
11. プログラム研究員の追加等について
12. その他
13. スケジュールの確認

・第25回所員会議

- (日 時) 2016年12月8日 13時00分～14時45分
- (場 所) アジア国際社会福祉研究所
- (参加者) 秋元 樹、藤森 雄介、郷堀 ヨゼフ、松尾 加奈  
宮川 純子、永野 淳子
- (議 題)
1. 本日の予定
  2. 前回議事録の確認
  3. ワン先生関連について
  4. スリランカ訪問団関連について
  5. マレーシア・サバ大学との連携及びアディ・ファハルディン教授の訪問について
  6. ラオス及びタイの契約書関連について
  7. 「内部監査」の実施について
  8. 社事大との共催「環太平洋セミナー」について
  9. 国際フォーラムについて
  10. 中国チームの出張について
  11. プログラム研究員の追加等について
  12. その他
  13. スケジュールの確認

・第26回所員会議

- (日 時) 2016年12月15日 13時00分～14時45分
- (場 所) アジア国際社会福祉研究所
- (参加者) 秋元 樹、藤森 雄介、郷堀 ヨゼフ、松尾 加奈  
宮川 純子、永野 淳子
- (議 題)
1. 本日の予定
  2. 前回議事録の確認
  3. 第8回大学協議会報告
  4. ワン先生関連について
  5. スリランカ訪問団関連(新大学提案書記述を含む)について
  6. マレーシア・サバ州立大学との連携について

7. ラオス及びタイの契約書関連について
8. 社事大との共催「環太平洋セミナー」について
9. 国際フォーラムについて
10. その他
11. スケジュールの確認

・第27回所員会議

- (日 時) 2016年12月22日 13時00分～14時30分
- (場 所) アジア国際社会福祉研究所
- (参加者) 秋元 樹、藤森 雄介、郷堀 ヨゼフ、松尾 加奈  
相澤 修一郎、宮川 純子、永野 淳子
- (議 題) 1. 本日の予定  
2. 前回議事録の確認  
3. ワン先生関連について  
4. ビジティング・リサーチャー、同プログラム講師、訪問者等のアテンド経費(広義)について  
5. ラオス及びタイの契約書関連について  
6. 国際フォーラムについて  
7. 事務職員の増員(派遣)について  
8. 研究員の次年度兼担科目について  
9. その他  
10. スケジュールの確認

・第28回所員会議

- (日 時) 2017年1月12日 13時00分～14時45分
- (場 所) アジア国際社会福祉研究所
- (参加者) 秋元 樹、藤森 雄介、郷堀 ヨゼフ、松尾 加奈  
相澤 修一郎、宮川 純子、永野 淳子
- (議 題) 1. 本日の予定  
2. 前回議事録の確認  
3. 第9回大学協議会について  
4. ワン先生関連について  
5. 海外からの訪問者(含む、ビジティング・リサーチャー論博プログラム関係)、アテンド、リクリエーション費用等の支出について  
6. 12月スリランカ代表団訪問の懸案事項について  
7. VR論博プログラム規程案及び細則案(2種)について  
8. ラオス及びタイの契約書関連について  
9. 東北福祉大学出張について  
10. ベトナム出張について  
11. 国際フォーラムについて

12. 事務職員の増員（派遣）について
13. その他
14. スケジュールの確認

• 第29回所員会議

- (日 時) 2017年1月19日 13時00分～15時00分  
(場 所) アジア国際社会福祉研究所  
(参加者) 秋元 樹、藤森 雄介、郷堀 ヨゼフ、松尾 加奈  
相澤 修一郎、宮川 純子、永野 淳子、野中 夏奈  
(議 題) 1. 本日の予定  
2. 新入職員のご紹介  
3. 前回議事録の確認  
4. ワン先生関連について  
5. 倫理委員会への審査申請について  
6. VR論博プログラム規程案及び細則案(2種)進捗状況について  
7. ラオス及びタイの契約書関連について  
8. 2017年度の大学院連携プログラムの流れについて  
9. 国際フォーラムについて  
10. その他  
11. スケジュールの確認

• 第30回所員会議

- (日 時) 2017年1月26日 13時00分～14時45分  
(場 所) アジア国際社会福祉研究所  
(参加者) 秋元 樹、藤森 雄介、郷堀 ヨゼフ、松尾 加奈  
相澤 修一郎、宮川 純子、永野 淳子、野中 夏奈  
(議 題) 1. 本日の予定  
2. 前回議事録の確認  
3. 大学入試期間の業務について  
4. ワン先生関連について  
5. VR論博プログラム規程案及び細則案(2種)進捗状況について  
6. ラオス及びタイの契約書関連について  
7. 釜石、大船渡、出張について  
8. 国際フォーラムについて  
9. その他  
10. スケジュールの確認

• 第31回所員会議

- (日 時) 2017年2月9日 13時00分～15時30分  
(場 所) アジア国際社会福祉研究所

(参加者) 秋元 樹、藤森 雄介、郷堀 ヨゼフ、松尾 加奈  
相澤 修一郎、宮川 純子、永野 淳子、野中 夏奈

- (議 題)
1. 本日の予定
  2. 前回議事録の確認
  3. 第10回大学協議会について
  4. ワン先生関連について
  5. VR論博プログラム規程案及び細則案(2種)進捗状況について
  6. 海外からの来客アテンド経費支出基準について
  7. 研究所所蔵図書について
  8. 「フォーラムプラス」について
  9. 国際フォーラムについて
  10. 大正大学チーム、中国出張について
  11. マレーシア・サバ州立大学への出張について
  12. 福島県いわき市、出張について
  13. その他
  14. スケジュールの確認

・第32回所員会議

(日 時) 2017年2月16日 13時00分～14時50分

(場 所) アジア国際社会福祉研究所

(参加者) 秋元 樹、藤森 雄介、郷堀 ヨゼフ、松尾 加奈  
相澤 修一郎、宮川 純子、野中 夏奈

- (議 題)
1. 本日の予定
  2. 前回議事録の確認
  3. 博士論文公開審査会について
  4. ワン先生関連について
  5. wifi端末の件について
  6. VR論博プログラム規程案及び細則案(2種)進捗状況について
  7. 研究所所蔵図書について
  8. 国際フォーラム(フォーラムプラス)について
  9. 「国内開発」関連、出張について
  10. その他
  11. スケジュールの確認

・第33回所員会議

(日 時) 2017年2月23日 10時30分～12時10分

(場 所) アジア国際社会福祉研究所

(参加者) 秋元 樹、藤森 雄介、郷堀 ヨゼフ、松尾 加奈  
相澤 修一郎、宮川 純子、野中 夏奈



- (議 題)
1. 本日の予定
  2. 前回議事録の確認
  3. ワン先生関連について
  4. IASSW、ソーシャルワーク教育3団体合併に関わる日本ソーシャルワーク教育学  
校連盟国際関係の動き(情報提供)について
  5. VR論博プログラム規程案及び細則案(2種)進捗状況について
  6. 研究所所蔵図書について
  7. 国際フォーラム案内チラシの送付状況
  8. フォーラム招聘者のビザ申請手続き書類について
  9. 国際フォーラム(プラス含む)について
  10. 「国内開発」関連、出張について
  11. その他
  12. スケジュールの確認

・第34回所員会議

- (日 時) 2017年3月2日 13時00分～15時05分
- (場 所) アジア国際社会福祉研究所
- (参加者) 秋元 樹、藤森 雄介、郷堀 ヨゼフ、松尾 加奈  
宮川 純子、永野 淳子、野中 夏奈
- (議 題)
1. 本日の予定
  2. 前回議事録の確認
  3. ワン先生関連について
  4. VR論博プログラム規程案及び細則案(2種)進捗状況について
  5. 研究所所蔵図書について
  6. 国際フォーラム案内チラシの送付状況
  7. フォーラム招聘者のビザ申請手続き書類について
  8. 国際フォーラム(プラス含む)について
  9. 「国内開発」関連、出張について
  10. その他
  11. スケジュールの確認

・第35回所員会議

- (日 時) 2017年3月9日 13時00分～14時00分
- (場 所) アジア国際社会福祉研究所
- (参加者) 秋元 樹、郷堀 ヨゼフ、松尾 加奈  
宮川 純子、永野 淳子、野中 夏奈
- (議 題)
1. 本日の予定
  2. 前回議事録の確認
  3. ワン先生関連について
  4. VR論博プログラム規程案及び細則案(2種)進捗状況について

5. 研究所所蔵図書購入について
6. 国際フォーラム（プラス含む）について
7. その他
8. スケジュールの確認

• 第36回所員会議

- (日 時) 2017年3月16日 13時00分～16時00分  
(場 所) アジア国際社会福祉研究所  
(参加者) 秋元 樹、藤森 雄介、郷堀 ヨゼフ、松尾 加奈  
相澤 修一郎、宮川 純子、永野 淳子、野中 夏奈  
(議 題) 1. 本日の予定  
2. 前回議事録の確認  
3. 大学協議会報告  
4. ワン先生関連について  
5. 国際フォーラム（プラス含む）について  
6. 国内出張について  
7. その他  
8. スケジュールの確認

• 第37回所員会議

- (日 時) 2017年3月30日 13時00分～14時30分  
(場 所) アジア国際社会福祉研究所  
(参加者) 秋元 樹、藤森 雄介、郷堀 ヨゼフ、松尾 加奈  
宮川 純子、永野 淳子、野中 夏奈  
(議 題) 1. 本日の予定  
2. 前回議事録の確認  
3. ワン先生関連について  
4. 国際フォーラム（プラス含む）について  
5. 年度末経理について  
6. 平成29年度第1回運営委員会について  
7. 平成29年度VR募集について  
8. 4月～5月の出張予定について  
9. その他  
10. スケジュールの確認

## 5. 出張

### (1) 岩手県①

(日 時) 2017年1月19日～1月21日

(場 所) 釜石市社会福祉協議会、大船渡市社会福祉協議会、日蓮宗仙寿院

(出張者) 藤森 雄介、渡邊 義昭

(目 的) ヒヤリング調査

### 岩手県②、宮城県⑥、福島県③

(日 時) 2017年2月20日～2月22日

(場 所) 岩手県社会福祉協議会、七ヶ浜町社会福祉協議会、利府町社会福祉協議会、宮城県社会福祉協議会、福島県社会福祉協議会

(出張者) 藤森 雄介、渡邊 義昭

(目 的) アンケート及びヒヤリング調査

### 岩手県③

(日 時) 2017年2月27日～3月1日

(場 所) 宮古市社会福祉協議会、山田町社会福祉協議会、大槌町社会福祉協議会 他

(出張者) 藤森 雄介、渡邊 義昭

(目 的) 社会福祉協議会に対するアンケート調査

### 岩手県④、宮城県⑧

(日 時) 2017年3月10日～3月12日

(場 所) 仙台国際センター、女川社会福祉協議会、陸前高田市浄土寺 他

(出張者) 藤森 雄介、渡邊 義昭

(目 的) 社会福祉協議会に対するアンケート調査

### (2) 宮城県①

(日 時) 2016年4月23日～4月25日

(場 所) 気仙沼市 浄念寺 他

(出張者) 藤森 雄介、渡邊 義昭

(目 的) 国内開発に関する事例調査 他

### 宮城県②

(日 時) 2016年11月14日～11月15日

(場 所) 南三陸町社会福祉協議会

(出張者) 藤森 雄介、渡邊 義昭

(目 的) アンケート調査

### 宮城県③

(日 時) 2016年12月22日～12月23日

(場 所) 東北福祉大学

(出張者) 藤森 雄介、渡邊 義昭

(目 的) アンケート調査に関する協力依頼及び打合せ

宮城県④

- (日 時) 2017年1月26日～1月27日  
(場 所) 石巻市社会福祉協議会、東松島市社会福祉協議会  
(出張者) 藤森 雄介、渡邊 義昭  
(目 的) ヒヤリング調査

宮城県⑤

- (日 時) 2017年2月16日～2月17日  
(場 所) 東松島市立図書館、東松島市役所、亘理町社会福祉協議会  
(出張者) 藤森 雄介、渡邊 義昭  
(目 的) ヒヤリング調査

宮城県⑥ (1) 岩手県②、宮城県⑥、福島県③ を参照

宮城県⑦

- (日 時) 2017年3月2日～3月3日  
(場 所) 名取市社会福祉協議会、岩沼市社会福祉協議会 他  
(出張者) 藤森 雄介、渡邊 義昭  
(目 的) 社会福祉協議会に対するアンケート調査

宮城県⑧ (1) 岩手県④、宮城県⑧ を参照

(3) 福島県①

- (日 時) 2016年9月5日  
(場 所) 女川町社会福祉協議会  
(出張者) 藤森 雄介、渡邊 義昭  
(目 的) アンケート調査の打合せ

福島県②

- (日 時) 2017年2月2日  
(場 所) いわき市社会福祉協議会  
(出張者) 藤森 雄介  
(目 的) インタビュー調査

福島県③ (1) 岩手県②、宮城県⑥、福島県③ を参照

福島県④

- (日 時) 2017年3月5日～3月6日  
(場 所) 広野町社会福祉協議会 他  
(出張者) 藤森 雄介  
(目 的) 社会福祉協議会に対するアンケート調査

(4) 愛媛県

- (日 時) 2016年5月20日～5月22日  
(場 所) 松山市総合福祉センター  
(出張者) 秋元 樹  
(目 的) 2016年度愛媛県社会福祉士会定期総会での記念講演  
「ソーシャルワークのグローバル定義について」

(5) ロシア

- (日 時) 2016年10月4日～10月9日
- (場 所) ウラジオストック 極東連邦大学
- (出張者) 郷堀 ヨゼフ
- (目 的) アジア太平洋ソーシャルワーカーサミットでの研究成果発表

(6) モンゴル

- (日 時) 2016年9月5日～9月9日
- (場 所) ウランバートル モンゴル国立大学、モンゴル国立師範大学
- (出張者) 小川 博章、郷堀 ヨゼフ
- (目 的) 共同研究者との打合せ、資料・情報収集、現地視察

(7) 中国①

- (日 時) 2016年12月16日～12月19日
- (場 所) 広州市 中山大学
- (出張者) 金 潔
- (目 的) 社会福祉とソーシャルワーク国際会議への参加

中国②

- (日 時) 2017年3月4日～3月7日
- (場 所) 中国(杭州、温州、上海) 浄慈寺、安福寺、華東師範大学
- (出張者) 石川 到覚、新保 祐光、金 潔
- (目 的) 寺院の社会活動や社会福祉専門職養成などの聞き取り調査

(8) 韓国①

- (日 時) 2016年6月26日～6月30日
- (場 所) ソウル COEX
- (出張者) 秋元 樹、松尾 加奈、菊池 結
- (目 的) ソーシャルワーク教育社会開発世界会議での研究成果発表  
海外研究者との打合せ、情報収集

韓国②

- (日 時) 2016年7月31日～8月6日
- (場 所) ソウル 鍾路老人総合福祉館他
- (出張者) 劉 光鍾、藤田 則貴
- (目 的) インタビュー調査

韓国③

- (日 時) 2016年9月11日～9月17日
- (場 所) ソウル 障がい児者施設等
- (出張者) 劉 光鍾、藤田 則貴
- (目 的) インタビュー調査、資料収集

#### 韓国④

- (日 時) 2016年11月11日～11月12日  
(場 所) ソウル 中央僧伽大學校  
(出張者) 秋元 樹、郷堀 ヨゼフ  
(目 的) 共同研究者との打合せ

#### (9) ベトナム

- (日 時) 2017年1月9日～1月12日  
(場 所) ハノイ ベトナム国家大学社会科学人文学大学  
(出張者) 秋元 樹、松尾 加奈  
(目 的) ベトナムの研究協力者開拓と現地における仏教ソーシャルワーク実践現場の視察

#### (10) ラオス

- (日 時) 2016年11月1日～11月4日  
(場 所) ヴィエンチャン ラオス国立大学  
(出張者) 藤森 雄介、郷堀 ヨゼフ、渋谷 哲  
(目 的) 共同研究者との打合せ 他

#### (11) カンボジア①

- (日 時) 2016年6月6日～6月10日  
(場 所) プノンペン カンボジア大学  
(出張者) 藤森 雄介、郷堀 ヨゼフ  
(目 的) 現地の研究協力者との打合せ、現地視察、情報収集・資料収集

#### カンボジア②

- (日 時) 2016年7月22日～7月26日  
(場 所) プノンペン Buddhism for Education of Cambodia  
(出張者) 郷堀 ヨゼフ  
(目 的) 国際会議での研究成果発表及び共同研究者との交渉・打合せ

#### (12) タイ①

- (日 時) 2016年8月22日～8月28日  
(場 所) バンコク マハマクット仏教大学  
バンコク タイソーシャルワークプロフェッション協会 他  
(出張者) 松蘭 祐子、安藤 徳明  
(目 的) 共同研究者との研究打合せ

#### タイ②

- (日 時) 2016年10月20日～10月24日  
(場 所) バンコク タイソーシャルワークプロフェッション協会 他  
(出張者) 松蘭 祐子、安藤 徳明  
(目 的) 量的調査のプリテストの実施、調査の打合せ

### (13) ミャンマー

- (日 時) 2016年8月29日～9月3日  
(場 所) ミャンマー連邦共和国ヤンゴン管区及びバゴー管区パン・ピョ・レ僧院、ネットワーク・アクティビティーズ・グループ 他  
(出張者) 山口 光治、松尾 加奈  
(目 的) ミャンマー(ヤンゴン)における仏教ソーシャルワークに関する調査

### (14) ネパール ブータン

- (日 時) 2016年7月11日～7月20日  
(場 所) カトマンズ ボーダナー地区  
サムゼ ブータン王立大学サムゼ教育学部  
(出張者) 秋元 樹、藤森 雄介、松尾 加奈  
(目 的) ブータン及びネパールの研究協力者開拓と現地における仏教ソーシャルワーク実践現場の視察

### (15) スリランカ

- (日 時) 2016年9月27日～10月4日  
(場 所) キャンディ市内会場ホテル、ペラデニヤ大学社会学部 他  
(出張者) 秋元 樹  
(目 的) ソーシャルワーク・社会開発国際会議での挨拶  
スリランカの仏教ソーシャルワーク教育学校設立への支援 他

## 6. 来訪者

### (1) 2016年7月1日 ブラジルから教授2名の訪問

- ・来 客：アナ・ロハス・アコスタ教授  
(Profa. Dra. Ana Rojas Acosta, Universidade Federal de Sao Paulo, Brazil)  
マリア・ド・ロサリオ・デ・ファティマ・エ・シルバ教授  
(Profa. Dra. Maria do Rosario de Fatima e Silva, Universidade Federal do Piaui, Brazil)
- ・本 学：戸塚 法子総合福祉学部長
- ・研究所：秋元 樹、藤森 雄介、郷堀 ヨゼフ、松尾 加奈  
戸塚法子総合福祉学部長の歓迎の挨拶で迎え、本学とブラジルの関係について長谷川匡俊理事長のメッセージを秋元樹所長が伝えた。両教授は、当研究所を通じ、国際共同研究、国際ワークショップやシンポジウムの開催、教員や学生の留学・訪問など今後は本学と交流を図りたいと述べていた。

### (2) 2016年7月29日 タイから教授1名と修士課程院生8名の訪問

- ・来 客：プチョン・セナヌッチ准教授(フア・チアウ・チャルンブアキアット大学)  
(Assistant Professor Puchong Senanuch, Ph.D. Huachiew Chalermprakiet University)
- ・本 学：山口 光治学長特別補佐、久代 和加子、藤野 達也、西尾 孝司
- ・研究所：秋元 樹、藤森 雄介、郷堀 ヨゼフ、松尾 加奈

社会福祉政策が専門のセナムッチ先生が、まもなく訪れるタイの高齢化社会を見据え、認知症高齢者及びその家族への支援、介護保険制度の仕組み、そして看護・介護・福祉の専門職養成について日本の現状を学びたいと来日した。当日は午前中に特別養護老人ホーム淑徳共生苑（千葉市）を見学し、午後には当研究所にて本学教員が日本の制度などを説明し、意見交換を行った。

### (3) 2016年12月6日 スリランカから僧侶を含む5名の訪問

- ・来客：ゴダマ・チャンディマ師、ガラハビディヤ・ペマラタマ師、ヘラ教授（ペラデニア大学）、アヌラダ・ウィクラマシンハ氏、ガムニ・カリヤワサム博士
- ・本学：長谷川 匡俊理事長、磯岡 哲也副学長、村上 信特命研究員、小野寺 利幸千葉事務局長
- ・研究所：秋元 樹、藤森 雄介、郷堀 ヨゼフ、松尾 加奈

本学は4年間に渡り国際共同研究や国際学術フォーラム等を通じて、スリランカにおける仏教ソーシャルワークの教育プログラム開発に協力して来た。今回の訪問は、これまでの協力関係への感謝と新設大学（ナガランダ国際仏教大学）開学式への正式招待であった。

### (4) 2016年12月9日 マレーシアから教授1名の訪問

- ・来客：アディ・ファハルディン教授（マレーシア・サバ州立大学）
- ・研究所：秋元 樹、藤森 雄介、郷堀 ヨゼフ、松尾 加奈

当研究所が日本社会事業大学と共催した「第25回環太平洋社会福祉セミナー」に出席するため来日し、当研究所にも来所。サバ州立大学との共同研究推進のため協定締結の要請があった。

## 7. 分野別活動

### (1) 国際共同研究

海外の大学、研究者等との国際共同調査及び研究を計画、組織、実施するとともに他国からの同様の呼びかけに応え積極的に参加する。

- ① 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（p.41 9. 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業を参照）
- ② スリランカとの共同研究「プラクティス・ベースド・リサーチ（PBR）プロジェクト」実施
- ③ 日本社会事業大学（平成28年度国際共同研究 ソーシャルワーク新国際定義の地域における独自性検討のための基盤資料作成—特に、宗教とソーシャルワークについて—）との共同研究

### (2) 国際会議・セミナー・ワークショップ

国際会議・セミナー・ワークショップ等を開催し、国内外で行われるそれらにもスタッフが参加、講演、報告等発信に努める。

- ① 2016年6月12日 日本共生科学会第8回淑徳大学東京大会に参加、報告（松尾）。
- ② 2016年6月27-30日、ソーシャルワーク教育社会開発世界会議（韓国ソウル、国際ソーシャルワーク学校連盟（IASSW）・国際ソーシャルワーカー連盟（IFSW）・国際社会福祉協議会（ICSW）主催、メインテーマ「人々の尊厳と価値を高めよう」）に3名が参加（秋元、松尾、菊池）。「災害時に備えての仏僧のためのソーシャルワーク情報共有システム」を報告（菊池）。
- ③ 2016年7月24日、ASEAN経済共同体（AEC）主催の国際会議「Buddhist Harmony in AEC: Regional and



World Peace] (カンボジア・プノンペン) に参加、報告 (ヨゼフ)。

- ④ 2016年9月29-30日、国際社会開発コンソーシアム (International Consortium for Social Development; ICSID) アジア太平洋支部及びペラデニヤ大学による国連SDGsに関する国際会議 (スリランカ・ペラデニヤ大学) への参加、セッション議長 (秋元)。
- ⑤ 2016年10月5-8日、ロシア・ウラジオストックの極東連邦大学 (The Far Eastern Federal University) にて開催された「アジア太平洋ソーシャルワーカーサミット」Asia Pacific Summit of Social Workers」への参加、報告 (ヨゼフ)。
- ⑥ 2016年12月10日、日本社会事業大学主催の第25回環太平洋社会福祉セミナー (東京) の第1セッション「宗教とソーシャルワーク：イスラム“ソーシャルワーク”はどのように行われているのか」について共催、発表 (ワンワディ・ポンボクシン訪問研究員)。
- ⑦ 2017年3月22-23日、アジア仏教主要国を招いての第2回淑徳大学国際学術フォーラムを主催 (p.47 10. 国際学術フォーラムを参照)。
- ⑧ 2017年3月24日、スリランカとの共同研究PBRの最終報告会議「フォーラム・プラス」を本研究所にて開催。

### (3) 人的・組織的交流

研究ネットワークを拡げ、世界各地の大学・研究機関・NGO機関及び研究者・実践者たちとの意見交換・共同プロジェクト等を実施する。

- ① 2016年6月 ソウルで開催された国際会議においてビジティング・リサーチャー論博プログラムを広報したところ、インド・モンゴル・ネパール・アメリカ・ザンビア・ジンバブエ・マレーシアをはじめとする世界各国の参加者から本研究所との共同研究、大学間のダブル・ディグリーの仕組みづくり、日本国内のソーシャルワーク教育校との連携支援等様々な提案が示された。
- ② 2016年7月 ブラジルから、マリア・ド・ロサリオ・デ・ファティマ・エ・シルバ教授 (ピアウイ・フェデラル大学)、アナ・ロハス・アコスタ教授 (サンパウロ・フェデラル大学) の2名が来所し、大学・研究所間の交流を要請した。
- ③ 2016年7月末 タイからプチョン・セナムッチ准教授 (フアシュウ・チャレルムプルキエット大学) が修士課程の学生を引率して来所、淑徳共生苑を訪問した。本学教員 (山口・久代・西尾・藤野先生) が対応、日本の介護保険制度と高齢者福祉施策を説明した。
- ④ 2016年8月 関西学院大学への訪問のため初来日したヘルナンド・ムニョス・サンチェス学部長 (アンティオキア大学・コロンビア) と都内随行、意見交換。
- ⑤ 2016年9月 スリランカからアヌラダ・ウィクラマシンハ氏来日。都内随行、意見交換。
- ⑥ 2016年11月 論博プログラム招聘講師ズルカルナイン・A・ハッタ教授 (マレーシアサイنز工科大学) が来日。
- ⑦ 2016年12月 スリランカ訪問団が来校し今までの協力の感謝と新設大学開学式への招待と今後の協力の要請があった。
- ⑧ 2016年12月 マレーシア・サバ州立大学からアディ・ファハルディン教授が来所。サバ州立大学との共同研究推進のため協定締結の要請があった。

### (4) 人材養成

急速に拡大するアジア諸国の“ソーシャルワーカー”、社会福祉人材養成のニーズに応えるためPh.D. プロ

グラム(p.35 8. ビジティング・リサーチャー論博プログラムを参照)や訓練教育プログラム等の開発をする。

#### (5) 研究会の開催

ソーシャルワークの原論等をテーマに、定期的に研究会を開く。

- ① 2017年1月19日「仏教ソーシャルワークの枠組み」
- ② 2017年3月30日「仏教ソーシャルワークの定義策定にむけて」

#### (6) 資料収集

主に国際社会福祉及び仏教ソーシャルワーク活動に関する資料収集・整理・管理(p.52 11. 収集資料を参照)をする。

#### (7) 国際組織への貢献

国際ソーシャルワーク学校連盟(IASSW)、アジア太平洋ソーシャルワーク教育連盟(APASWE)等の国際組織の活動・運営へ積極的に関与・貢献・協力をする。

- ① APASWE会長補佐として、会員への情報発信及び対応窓口、理事会との連絡調整、選挙準備サポート、理事会・総会開催準備、エキシビジョン・ブースの設営と運営、隔年会議開催に向けてローカルホストとの連絡調整について、研究員が担当(松尾)。
- ② IASSW運営再建委員(秋元)。

#### (8) 他国大学への協力

海外、特にアジア諸国からのニーズ・要請に応じて、ソーシャルワーク・プログラムやカリキュラムの新設、講師派遣その他に積極的に協力する。

- ① ブータン王立大学サムゼ教育校の要請により、ソーシャルワーク教育カリキュラム開発のアドバイザー委員に秋元が就任。

#### (9) 出版物

国際共同調査及び研究の成果報告書を中心に、書籍や冊子を出版する。

出版物は、「p.56 15. 資料(1)②」を参照。

## 8. ビジティング・リサーチャー論博プログラム

### (1) 目的

アジア諸国のソーシャルワーク及びソーシャルワーク教育の拡がりは近年益々著しい。しかし大学(Schools of Social Work)に在籍する教員、特に学位を持つ教員が少ないという現状があり、その多くは欧米諸国へ留学している。一方で、アジア圏内の留学希望は高まっており、日本に対する期待は大きい。また、韓国・中国が博士課程のリクルートを始めている。本プロジェクトは、淑徳大学の名前を全アジアのソーシャルワーク大学コミュニティに知らしめると共に、博士号を取得し帰国したビジティング・リサーチャーが自国のソーシャルワーク教育及び実践の中心的存在として活躍が期待できることから、次世代の人材育成及び淑徳大学とアジア諸国のソーシャルワーク関連大学の大学院交流を目的としている。

## (2) 期待される効果

アジア諸国のソーシャルワーク関連大学は国立・私立を含め未だ少数だが、教育の機会が限られている国において大学に進学する学生の意識は高い。本プログラム修了者が自国に戻りソーシャルワーク教育を牽引し次世代を担う学生を淑徳大学に紹介するだけでなく、教員の交流、各種プロジェクトの共同研究を通じ、淑徳大学建学以来の「国際化」のミッションの具現化、それに伴う大学全体の活性化が期待できる。

## (3) 応募資格

- ① 修士…出来ればソーシャルワーク (MSW) を持つもの。
- ② 博士論文のテーマ、枠組み、構想がすでにできており、2年以内に論文提出が出来ること。望むらくはすでに執筆をはじめていること。
- ③ 研究所の提供するコースを履修／理解できること。
  - ・ 調査研究法と調査研究設計 I：定量的調査
  - ・ 調査研究法と調査研究設計 II：定性的調査
  - ・ 事業 (プログラム) 計画・管理・評価調査
  - ・ 論文作成指導 (一論文の査読付雑誌への投稿・掲載を目指す)
  - ・ 国際社会福祉／ソーシャルワーク
  - ・ 日本語と日本文化 (日本人及び日本に居住するものを除く)
  - ・ ソーシャルワーク原論 (MSW を持たない者のみ)
  - ・ 特別講義・セミナー (参加者の関心による)

[各訪問研究員の論文テーマ内容に関わるものを含めいわゆる分野論的コース (e.g. 高齢者、児童、障がい、貧困、HIV/AIDS、災害その他) は提供しない。]

  - \* これらは対面セッション及びオンラインにより英語 (原則) で実施。
  - \* 各コースの修了者にはコースごとに研究所所長名の修了書 (certificate) を発行する。(学生向けコースではないのでいわゆる「単位」ではない。)
  - \* 講師は、日本及び海外の大学教授から成る担当講師一覧の中から選び委託する。
- ④ 国籍及び応募時の居住地は不問。但し、奨学金を受けられるものは日本国籍を有せず、且つ応募時に自国に実際に居住している者に限る。
- ⑤ 所属する大学・学部あるいは組織の一切の職務・業務から2年間解放され、キャンパスを離れ、当研究所ビジティング・リサーチャーとして論文執筆に専念できることが望ましい。これが不可能である場合には自ら十分な執筆時間を見いだせる旨の保証を示せること。
- ⑥ 所属大学または学部、組織を含めた3通の推薦状 (いずれかにおいてプログラム参加期間中の身元保証、研究遂行能力、人柄、英語能力に言及のこと) を提出できること。

(4) 定員：奨学金付プログラム・奨学金無しプログラム参加者共に毎年度各1名

(5) 受入期間：2年間 (最長)

(6) 募集する論文のテーマ：次の2分野のいずれかに属するテーマであること

- ① 国際社会福祉 (International Social Work)
- ② 仏教“ソーシャルワーク”

## (7) 奨学金の内容

- ・赴任準備金（5万円）
- ・月々の生活・研究費（月20万円）
- ・交通費については赴任・離任時及び口頭試問時の往復渡航旅費及び必要最低限の宿泊費を支給する。
- ・住居は研究所が用意する（光熱費は自己負担）。

## (8) 2016年度のビジティング・リサーチャー

（応募者）奨学金付9名、奨学金無し応募者なし

（選考日）2016年7月14日

### 採用者

（氏名）ワンワディ・ポンボクシン（Wanwadee Poonpoksin）

（国籍）タイ

（所属大学・職位）タマサート大学社会福祉学部准教授

（来日）2016年10月5日

（研究室）1号館3階302研究室

（受入期間）2年間

（研究テーマ）タイにおける移住労働者ソーシャルウェルビーイング尺度の開発（Development of Indicators of Social Wellbeing of Migrant Workers in Thailand: An Exploratory Mixed Methods Study）

（その他の研究活動）

- ① 淑徳大学社会福祉学会第26回大会（2016年11月26日）へ出席・発表  
基調講演「タイにおける移住労働者の現状と福祉サービス」を発表
- ② 日本社会事業大学主催・淑徳大学アジア国際社会福祉研究所共催第25回環太平洋社会福祉セミナー（2016年12月10日）へ出席・発表  
「タイのソーシャルワーク、家庭内暴力ドメスティック・バイオレンスの被害を受けるムスリムの子どもの状況」と題してワンワディ・ポンボクシン訪問研究員は博士論文構成の紹介も兼ねて発表
- ③ 日本のソーシャルワーク事情：県内の福祉施設見学及び講義（2017年2月11日）  
村上信特命研究員の案内により、本学院生・郷堀ヨゼフとともに千葉療護センターを見学
- ④ 第2回淑徳大学国際学術フォーラム（2017年3月22-23日）への出席
- ⑤ 明治学院大学における移住労働・人身取引に関する国際シンポジウム（2017年3月24日）への出席

## (9) 招聘講師

ビジティング・リサーチャー（以下、VRと略す）に対し当研究所が提供するコースの指導をするために、講師を招聘する。

### ① 委託業務内容

- ・VRの研究テーマに沿ったテキスト及び参考文献の選定・助言
- ・VRに提供するコースのシラバスに相当するカリキュラム作成
- ・面接によるVRの研究能力、ニーズ、研究到達度の把握
- ・VRが研究活動を円滑に遂行するためのオリエンテーション及びコンサルテーション
- ・論文作成指導及び添削
- ・VRの研究遂行のための専門知識の提供

- ・VRの研究の円滑な遂行のためのスーパービジョン、助言支援
- ・そのほか講師が研究遂行のために必要と判断する各種支援

## ② 2016年度の招聘講師

ズルカルナイン・A・ハッタ (Zulkarnain Ahmad Hatta)

サインズ・マレーシア大学 教授 (Professor, Universiti Sains Malaysia) (当時)

(セッション名) 「論文作成指導」

1) 11月8日 10:00-13:00

論文全体構成へのスーパービジョンとリサーチ計画再構成

2) 11月10日 9:00-11:00

第1章再構成検討及び文献レビューについて

3) 11月10日 12:00-13:00

先行研究の重要性と効果的な文献レビュー

4) 11月15日 10:00-13:00

Ph.D.論文構成について：方法論

5) 11月16日 10:00-13:00

量的調査データの有効性及び信頼性を効果的に伝えるために(ディスカッションを含む)

6) 11月21日 10:00-13:00

調査結果及び結論の作成上留意すべき点について①(ディスカッションを含む)

7) 11月22日 10:00-13:00

調査結果及び結論の作成上留意すべき点について②(ディスカッションを含む)

8) 11月24日 10:00-13:00

APAフォーマットによる文献リスト作成について

9) 11月28日 10:00-11:30

総括

合計セッション時間数 22.5時間

## (10) 担当講師一覧(2016年-2017年) 【2016年7月1日現在】

### ① 調査研究法と調査研究設計Ⅰ：定量的調査

- ・陳 礼美 Chen Li Mei, Ph.D. (関西学院大学教授)
- ・マイケル・A・ルイス Michael A Lewis, Ph.D. (ニューヨーク市立大学ハンター校大学院准教授(アメリカ))
- ・中谷 陽明 Yomei Nakatani, Ph.D. (松山大学教授)

### ② 調査研究法と調査研究設計Ⅱ：定性的調査

- ・マーク・ヘンリックソン Mark Henrickson, Ph.D. (マッセイ大学准教授(ニュージーランド))
- ・デチャ・サンカワン Decha Sungkawan, Ph.D. (タマサート大学准教授(タイ))
- ・山崎 浩司 Hiroshi Yamazaki, Ph.D. (信州大学准教授)

### ③ 事業計画、管理、評価調査

\* 2016年度は開講しない。

### ④ 論文作成指導

- ・ズルカルナイン・A・ハッタ Zulkarnain A. Hatta, DSW(マレーシア・サインズ大学教授(マレーシア))

## ⑤ 国際社会福祉／ソーシャルワーク

- ・秋元 樹 Tatsuru Akimoto, DSW (淑徳大学アジア国際社会福祉研究所教授)
- ・郷堀 ヨゼフ Josef Gohori, Ph.D. (淑徳大学アジア国際社会福祉研究所准教授)
- ・松尾 加奈 Kana Matsuo, MSW (淑徳大学アジア国際社会福祉研究所助教)

上記に加え日本内外から大学教授を講師として招聘予定。

## ⑥ 日本語と日本の文化

\* 2016年度は開講しない。

## ⑦ 西洋ソーシャルワークのエッセンス (ソーシャルワーク以外の分野からの研究者対象)

- ・黒木 保博 Yasuhiro Kuroki, M.A. (同志社大学教授) 及び日本内外から大学教授を講師として招聘予定。
- ・オーガナイザー：松尾 加奈 Kana Matsuo, MSW (淑徳大学アジア国際社会福祉研究所助教)

## ⑧ 特別講義・セミナー

日本内外から大学教授及び専門家を講師として招聘予定。

- ・オーガナイザー：淑徳大学アジア国際社会福祉研究所

## (11) アドバイザリーボード (2016-2017) 【2016年7月1日現在】

- ・アーウィン・アップスタイン Irwin Epstein, Ph.D. (前ニューヨーク市立大学ハンターカレッジ教授 (アメリカ))
- ・リン・ヒーリー Lynn Healy, Ph.D. (前コネチカット州立大学教授 (アメリカ))
- ・H.M.D.R. ヘラ H.M.D.R. Herath, Ph.D. (ペラデニヤ大学教授 (スリランカ))
- ・グエン・ホイ・ロアン Nguyen Hoy Loan, Ph.D. (ベトナム国立社会人文科学大学准教授 (ベトナム))
- ・ヴィムラ・ナドカルニ Vimla Nadkarni, Ph.D. (前国際ソーシャルワーク教育学校連盟 (IASSW) 会長、前タタ社会福祉大学教授 (インド))
- ・フェンティニ・ヌグロホ Fentiny Nugroho, Ph.D. (アジア太平洋ソーシャルワーク教育連盟 (APASWE) 会長、インドネシア大学上級講師 (インドネシア))
- ・ムハンマド・サマド Muhammad Samad, Ph.D. (APASWE 理事、ダッカ大学教授 (バングラデシュ))
- ・朴 光駿 Park Kwangjoon, Ph.D. (佛教大学教授 (日本))

## (12) 2016年度総括 (松尾 加奈記)

### ① 応募状況

2016年5月のWebサイト公開と、6月に開催されたソーシャルワーク教育社会開発世界会議 (韓国ソウル) での広報により大きな反響があった。特に国際会議においてはアフリカや中南米の人びとからも関心が寄せられアジア太平洋地域に限定することに対する不満の声もあった。

当研究所には延118件の問い合わせがあり、プログラムの内容ばかりか大学教員のポストの問い合わせやソーシャルワークに関するオンライン受講の可否についての問い合わせも見られた。7月の選考時点においてベトナム、モンゴル、タイ、バングラデシュ、インドネシア、フィリピン、インドの7ヶ国から9名の応募があった。またその職種をみると教授・准教授の職にある者、NGOに勤めている者、修士課程を修了したばかりの若手と幅広い年齢層にわたっていた。

## ② 実施状況

2016年7月末の選考結果通知以降、当研究所は滞在ビザ取得や居住アパートの準備等初年度特有の対応に追われた。ビジティング・リサーチャー（以下、VRと略す）は予定通り10月に来日、11月の学内学会、12月の日本社会事業大学共催の国際セミナー、2017年3月の当研究所主催の国際学術フォーラムにそれぞれ出席、キーノート・スピーチや報告者として貢献しながら、2018年夏の論文提出を目指し執筆作業を続けている。

## ③ 見えてきた課題

### 1) 着任時のきめ細かな日常生活の支援の必要性

本プログラムは学位取得を目指すものであるが、VRを「学生」ではなく「研究者」として迎え入れている。一方で日本への入国・在留資格制度上は「学位取得を目指す『留学生』」であることから、本人に対して丁寧な説明が必要だった。また、アジア各国の大学教員やNGO関係者には経済的に余裕があり、家事一般を使用人に任せているケースも多いが、VRとして日本滞在中は自分で家事をしなければならない。特に食材について宗教上の制約がある場合には調達が難しい。さらに、日本のWi-Fi利用は外国籍ユーザーとの契約が難しく、携帯電話キャリアの契約においても2年間という限定的な滞在の「外国人」に対して厳しい制限がある等、研究員はVRを受け入れるにあたり日常生活の国際化が進んでいない日本の実情を実感すると共に最初の数ヶ月は留学生よりも日常生活の支援の配慮が必要であった。

### 2) 言語と意識の壁

VRの居住アパートの家電製品の表示や大学近辺の標識等が日本語表示に限られており、日常生活を送る上で研究所員の細かな配慮が必要となる。また、VRは研究所内では英語でセッションを受け、英語を使ってコミュニケーションをとっているが論文作成に迫られ、自発的に日本語の講習を受ける姿勢はみられない。留学生であれば、授業等で日本語の理解が求められることもあるかもしれないが、この論博プログラムの場合は取って代わらなければ日本語に接する機会も限られてしまう。

VR滞在中に日本語による様々な専門領域レクチャーを検討したいが、全てを研究員が担うことに限界があり、民間の通訳サービスを利用すると非常に高額となる。2016年度は「日本語と日本文化」のコース提供を見合わせているが、日本語教育実施機関との連携も視野に入れる必要がある。

### 3) 学内の規程・様式の英訳の必要性

プログラム開始当初は想定していなかった大学院の規程、要項、申請書の様式等について英訳、VRが作成した書類の和訳発注が必要となった。(例：「大学院（総合福祉研究科）の規程について」・「課程博士の審査基準・論博審査について」・「研究倫理審査」など）

### 4) 「論博」という日本独自の仕組みへの理解の壁

本プログラムは「学位が早期に取れるというプログラム」ではない。少なくとも5年の研究期間を持つアジア地域の教員（あるいは実践者）が、すでに収集したデータをもとに論文を書き上げる時間（最長2年間）と場所を提供するプログラムである。

当研究所の役割は、コースセッションの提供、論文作成作業のペースメイカー、提出された論文原稿について本学大学院総合福祉研究科への推薦状作成、淑徳大学本体とVRの橋渡しの存在である。しかし「論博であるから指導教授がない」と明記しても申請者達は「課程博士」と同等のサービスを期待している。また指導教授（スーパーバイザー）がないため論文作成過程でスーパービジョンの必要性がある場合は、自ら探してそれを依頼しなければならない。「論博」の仕組みの理解が難しい。

#### 5) 図書館文献とVRの必要な文献のミスマッチ

図書館の文献は日本語に偏る傾向があり、VRが作成する論文に必要な文献と学内図書館の所蔵する文献・電子ジャーナルの資源がマッチしにくい。VRの研究テーマが必ずしも日本福祉教育の潮流に合致しているわけではないため、日本国内で研究協力者を見つけるのが困難である。

#### ④ 今後の展望

2017年度のビジティンク・リサーチャー論博プログラムも公開され、ミャンマーやブータン、サウジアラビア等の研究者から関心が寄せられている。アジア太平洋地域におけるソーシャルワーク教育関係者から学位取得を目指すという本プログラムへの期待は大きい。国外の多くのソーシャルワーク関係者からの大きな期待を考えると、日本国内外の大学院が連携し招聘講師・審査委員会の学外教授といった人材の確保、英文献へのアクセス確保を図っていくことが将来的な課題として挙げられる。

## 9. 文部科学省 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

### (1) 構想の概要 (2015年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業構想調書抜粋)

【研究プロジェクト名】 アジアのソーシャルワークにおける仏教の可能性に関する総合的研究

#### ① 研究目的・意義

現在、ソーシャルワーク（以下、SWと略す）に関する定義や現状認識について、一国を超えた国際機関の俎上において新たな揺らぎや問題提起がなされる中、多くの社会問題に対応するソーシャルワーカーが求められる一方で、現在も「専門職」としての確立が十分と言えないアジア地域において、SWの代替的に担ってきた寺院や僧職者の福祉的実践活動を事例として検討することを通じて、SWにおける「価値」や「社会資源」としての仏教の可能性の探求を主たる目的としている。

その成果は、これまで行なわれてこなかった「仏教ソーシャルワーク（以下、仏教SWと略す）」の体系化につながるものであり、SWとは異なる価値や方法論について日本を含めたアジア諸国に提示することになると同時に、本来重視されるべき、各国の文化・価値観・歴史・習俗・習慣やその背景に存在する宗教を尊重したSWのあり方やその本質について分析や議論を行なっていく、これまでにない切り口でアプローチが行なえる研究拠点の形成が可能になる。

#### ② 研究計画・研究方法

##### 1) 研究体制

藤森雄介（国際コミュニケーション学部准教授）を研究代表者とし、学内13名（社会福祉学・仏教学・宗教社会学・情報学など）と学外6名を主な研究者とする共同研究により、それぞれ海外と国内を対象とする2つの研究テーマで進める研究プロジェクトである。

研究の推進にあたっては、研究者代表、事務局、研究テーマのリーダー、サブリーダーで構成する運営委員会を常設するとともに、アジア太平洋ソーシャルワーク教育連盟（APASWE）、日本仏教社会福祉学会、公益財団法人全日本仏教会、仏教NGOネットワーク等といった学外の諸団体とも協力体制を構築して、全関係者の緊密な情報共有と連携による研究運営を行なう。

##### 2) 年次計画

- ・2015～2016年度：研究環境整備、国内外調査研究、研究報告会の開催（年2回）、国際シンポジウムの開催、次年度報告書作成



- ・2017年度：各テーマの研究継続、成果確認、中間成果報告、中間評価
- ・2018～2019年度：各テーマ研究を相互連携して展開する。年4回程度の研究会報告と最終年度に国際シンポジウムを開催して事後評価を受ける。さらに関係各国及び関係機関、団体に対する政策提言を行なう。

### 3) 私学助成金補助金申請額

- ・研究費：2015～2019年度 各年度15,000,000円 総額75,000,000円

### 4) 研究により期待される効果

2014年7月に行われた、国際ソーシャルワーク学校連盟(IASSW)及び国際ソーシャルワーク連盟(IFSW)の総会において改定が承認されたSW専門職のグローバル定義の本文中に、「この定義は、各国および世界の各地域で展開してもよい」と定めているが、この回答を各国及び地域が準備することは容易ではない。なぜならば、本来、SWとは、各国の文化・価値観・歴史・習俗・習慣やその背景に存在する宗教との関係の中で発達してきたにも関わらず、特にアジア地域においては、この点についてはこれまで議論の俎上に載せることすら怠っていたという反省がある。

本研究の成果により、「仏教SW」体系化の端緒を明らかにすることで、「アジアの宗教・文化・価値等に根ざしたSWとは何か？」という問いかけに一つの解を提示することができると思う。そしてそれは、今後のアジアのSWの在り方に新たな視点の提供や実践・協働モデルの開発が期待できると考えている。

## (2) 研究テーマ (2015年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業研究テーマ調書抜粋)

### ①【研究テーマ1】 アジアにおけるソーシャルワークと仏教に関するリサーチ

#### 研究テーマ概要

#### 1) 研究分野

これまでほとんど体系的に実施されてこなかった、アジア諸国におけるSWの展開状況と、その代替的機能を担ってきたと考えられる仏教(宗教)の福祉的実践活動に関するリサーチを行ない、各国の現状及び課題の明確化を図る。それと並行して、調査を通じて信頼関係を構築した各国の研究者及び実践者を招聘して国際ワークショップを実施し、議論を深めていく事を通じて、アジア地域に共有できる「仏教SW」の体系化を試みていく。従って、対象となる研究分野は、仏教社会福祉学、社会福祉学、仏教学、宗教社会学である。

#### 2) 研究内容

一括りに「アジア地域」といっても広域であり、また実際には定義や解釈によって見解の分かれる場合もある。本研究テーマでは、その研究対象地域を一般的にいわれる「東アジア」・「東南アジア」・「南アジア」と限定した上で、以下の2つの小グループに分かれて課題に取り組む。

#### A) 仏教を主たる宗教とするアジア諸国におけるSWと仏教に関するリサーチ

東アジア地域の韓国・台湾、東南アジア地域のタイ・ベトナム・ミャンマー・ラオス・カンボジア・ブータン、南アジアのスリランカの9ヶ国における、SWの展開状況及びその代替的な役割を担っていると考えられる仏教の福祉的実践活動についてフィールド調査を行なうとともに、年1回の国際ワークショップを実施して「SWにおける仏教の可能性」に関する議論を深めることを通じて、国際的に通用する仏教SWの体系化を目指していく。

#### B) 他宗教を主とするアジア諸国及び欧米文化圏における現状に関するリサーチ

中国、モンゴル、インド、ネパール、バングラデシュ、インドネシア、マレーシア、シンガポール、フィリピン、ブルネイ、アフガニスタン、パキスタンの12ヶ国について、SWの展開状況及びその代替的な役割を担っていると考えられる仏教を含む宗教の社会的実践活動についてフィールド調査を行な

い、その成果をA)の小グループの成果と照らし合わせることで、「仏教」のもつ特性の可視化を試みる。  
また、SW及び仏教の実践理論の整理や再検討を行なうとともに、本研究に関連する研究の蓄積がある  
と考えられる欧米文化圏の研究機関へもリサーチを行ない、先行研究のデータベース化を行なう。

### 3) 期待される成果又はその公表計画

本研究の実施により、これまで欧米社会のキリスト教の信仰を基盤として行なわれた慈善事業を出発点として体系化された、従来のSWとは異なる価値や方法論を持つと考えられる「仏教SW」体系化の端緒を明らかにできると考える。そして、この成果は、2014年7月に改定されたSW専門職の定義に述べられている、「この定義は、各国および世界の各地域で展開してもよい」との呼びかけに対する、アジア地域からの明確な応答と成り得ると考える。

なお、各国に赴いて実施するフィールド調査及び国際ワークショップの実施結果については、毎年年次報告書を作成して公開していく。

### 4) 2016年度の活動

#### 【4月～5月】

- ・研究所設立：研究所設立を受けて、各国カウンターパートへの案内・通知
- ・研究成果公表：共同研究者、関連機関への報告書（前年度の研究成果を纏めたもの）の送付

#### 【6月～7月】

- ・カンボジア出張（藤森・ヨゼフ）  
カウンターパート候補と現地打合せと調整を行なう。現地視察、ヒヤリングのほか、王立大学、仏教大学の2機関の協力を得て、現地の研究計画を立てる。
- ・韓国出張（秋元・松尾・菊池）  
国際会議（SWSD2016）に参加。報告書、出版物を紹介し研究成果をPRした。海外の大学、機関と情報交換し研究所設立を報告・PR。
- ・カンボジア出張（ヨゼフ）  
ASEANの国際会議「仏教とハーモニー」にスピーカーとして参加。カウンターパートとの打合せを行なう。
- ・ネパール、ブータン出張（秋元・藤森・松尾）  
両国の新たなカウンターパートと打合せを行ない、協力を要請。現地視察のほか、研究計画と研究体制について協議する。
- ・韓国調査  
本学で韓国のカウンターパートと打合せを行ない、研究計画を立てる（磯岡・劉・藤田）

#### 【8月～9月】

- ・韓国調査  
本学で韓国のカウンターパートと打合せを行ない、研究計画を立てる（劉・藤田）
- ・タイ出張（松藺・安藤）  
現地視察を行ない、カウンターパートと打合せを行なう。既存のデータを再確認しながら、新たな調査計画を立てる。研究協力者として安藤氏が加わった。
- ・ミャンマー出張（山口・松尾）  
現地視察を行ない、カウンターパートと打合せを行なう。既存のデータを再確認しながら、新たな調査計画を立てる。

- ・モンゴル出張（小川・ヨゼフ）

現地視察を行ない、カウンターパート（3機関）と打合せを行なう。これまでの研究成果について確認し、執筆に向けて調整を行なう。

- ・韓国出張（劉・藤田）

現地視察を行ない、ヒヤリング、資料収集を2回行なう。

#### 【10月～11月】

- ・ロシア出張（ヨゼフ）

アジア太平洋ソーシャルワーカーサミット国際会議（ソーシャルワーク会議）にスピーカーとして参加し、本プロジェクトについて報告を行なうほか、ロシアにおけるソーシャルワーク及び仏教について情報収集を行なう。

- ・タイ出張（松園・安藤）

アンケート調査のプリテストのために現地へ赴く。プリテストのほか、現地視察とカウンターパートと打合せを行なう。

- ・韓国出張（秋元・ヨゼフ）

カウンターパートと打合せを行ない、研究の進め方について協議し調整を行なう。

- ・出版：日本社会事業大学共催で行なった第24回環太平洋社会福祉セミナーの報告書を出版。

- ・ラオス出張（渋谷・藤森・ヨゼフ）

カウンターパートと打ち合わせを行ない、研究計画等について協議する。

現地視察のほか、情報収集・資料収集を行なう。

#### 【12月～1月】

- ・セミナー開催：日本社会事業大学と共同で第25回環太平洋社会福祉セミナーを行なう。テーマは、「イスラムとソーシャルワーク」

- ・スリランカ：スリランカ訪問団が本学を訪れた際に、カウンターパートと打ち合わせを行ない、研究成果を踏まえながら執筆に向けて調整を行なう。

- ・ベトナム出張（秋元・松尾）

現地視察を行ない、カウンターパートと打合せを行なう。これまでの研究成果について確認し、執筆に向けて調整を行なう。

#### 【2月～3月】

- ・国際学術フォーラム開催に向けての準備及び3月22日・23日に開催した。詳細は「p.47 10. 国際学術フォーラム」の項を参照。

#### 5) 2016年度の総括（郷堀 ヨゼフ記）

2016年度は、研究活動の本格的なスタートの一年であった。本支援事業の最終的な目的でもある研究基盤形成に向けて、アジア地域の研究者や研究機関と手を組み、一大学、一国を超えた取り組みを始めた。所員やプログラム研究員は、10以上ある対象国に赴き、現地の研究者及び実践者と共同研究に関する打ち合わせと現地視察を行なった。現地の研究者や研究機関に単なる業務委託をするのではなく、あくまでも共同研究として進めていき、研究ネットワークづくり、すなわち研究基盤づくりに重点を置いた。その結果、以前から共同研究などの実績があったスリランカやベトナムなどの国や地域はもちろんのこと、ラオス、ブータンやモンゴルなどと新たな研究のつながりができ、東南アジアを中心に研究ネットワークがいっきに広がった。

同時に、宗教とSWをキーワードに、アジア地域における仏教SWの定義及びフレームワークに関する検

討を行ない、所員、プログラム研究員、海外共同研究者の間でアジア各地の実践や知見を共有しながら、議論を進めてきた。なお、仏教SWを探求するこの議論の一部の成果を、ロシアやカンボジアなどの国際会議で発表し、SW学界に発信した。

上記のような研究活動の結晶と位置付けられるのは、2017年3月に開催した第2回国際学術フォーラムである。アジア9ヶ国の研究者及び実践者を招聘し、これまでの研究活動報告を踏まえて、仏教SWの概念や定義について議論を深めることができた。さらに、「アジア仏教ソーシャルワーク研究ネットワーク」の結成について記者会見を行ない、研究基盤づくり及び共同研究の成果について情報発信した。

## ②【研究テーマ2】 日本の地域社会におけるソーシャルワークと仏教の協働連携モデルの開発

### 研究テーマ概要

#### 1) 研究分野

本研究は、東日本大震災に際して「日本仏教」が担った福祉的実践活動を主たる事例として取り上げて、アンケート調査や現地ヒヤリング等を行ない、その分析から現状や課題の明確化を図り、その課題解決・改善のプロセスを通じて、地域社会における寺院の在り方に関するモデルを提示していく。また同時に、仏教をキーワードに日常的に情報共有ができる「プラットフォーム」の構築と運用を行なっていくことで、日本における仏教SWの実践モデルをアジア諸国の仏教関係団体及び政府機関に示していく。従って、対象となる研究分野は、仏教社会福祉学、災害福祉学、仏教学、宗教社会学、情報学である。

#### 2) 研究内容

我が国のSWと仏教に関しては、例えば1967年に発足した日本仏教社会福祉学会が50年に及ぶ議論の場を提供する等、理論化に向けて一定の蓄積を有しているといえるが、一方で、寺院や僧職者等が現在行なっている福祉的実践活動との連動や、行政や社会福祉協議会等の公的機関との関係については、これまで「政教分離」という壁もあって具体的な連携や協働のモデル構築までに至っていなかった。この点が、この度の東日本大震災の際の被災地支援を検証する際に、社会福祉と仏教の双方から今後の改善すべき喫緊の課題として明らかとなっている。

本研究では、仏教SWの体系化に向けて一定程度の蓄積を持つ日本として、その理論を裏付けられるような実践のモデルを構築することで、「仏教SW」が単なる机上の空論ではなく、実践の場に援用可能な実学であることを実証するとともに、そのモデルが日本一国に留まらず、アジアのSWと仏教の可能性を考える際に有益な検討事例としていくことを目的としている。

具体的には、東日本大震災に際して「日本仏教」が担った福祉的支援活動について、①被災地支援を通じて見えてきた諸問題の分析を行なってより明確化し、②明らかとなった諸課題の解決改善に向けた事例検討を行なうとともに、③情報共有のための持続可能なプラットフォームの開発と運用に取り組んでいく。

なお、本研究の担当は、藤森・齋藤・山下・石川・稲場・新保・吉水の7名を中心として研究を進めていくが、ヒヤリング調査や事例の検討にあたっては、日本仏教社会福祉学会員の学術研究と実践者や諸活動を繋ぐプラットフォームの開発と運用には、公益財団法人全日本仏教協会の協力を得ながら進めていく。本研究代表の藤森雄介は、現在、日本仏教社会福祉学会理事兼事務局長(当時)兼東日本大震災対応検討プロジェクト(現「日本の地域社会におけるソーシャルワークと仏教の協働連携モデルの開発」研究)委員長及び公益財団法人全日本仏教協会支援検討委員である。また、研究メンバーの石川到覚教授は、日本仏教社会福祉学会の理事を務めている。

#### 3) 期待される成果又はその公表計画

現在の我が国の社会福祉の現状は、年々増加傾向にある社会保障費を抑制せざるをえない財政状況の中

で、フォーマルな福祉サービスを展開するには、「ヒト・モノ・カネ」が圧倒的に不足している状況にある。そのような中で従来の枠組みに囚われない新たな「社会資源」のより有力な候補である「日本仏教」が、本研究の成果を通じて、「政教分離」という壁を越えて地域社会における社会福祉の担い手となり得ることができると考える。

さらに、仏教をキーワードに様々な団体や個人が日常的に繋がるプラットフォームの構築は、将来的には日本一国を超えて、仏教SWに関心ある様々な国や人々の情報共有の場として活用していく事も可能であると考えられる。

#### 4) 2016年度の活動

##### A) アンケート調査の実施

(調査の経緯及び目的)

東日本大震災における仏教の役割を知る手がかりとして、これまで、日本仏教社会福祉学会、全日本仏教会、仏教NGOネットワークの3団体協力のもと、宗派教団、被災地において避難所の役割を担った寺院、仏教系直接支援団体に対してそれぞれアンケート調査を実施して調査報告をまとめたが、これらの調査からは、支援を受けた側からの視点、つまり、被災者支援の窓口となった社会福祉協議会との関係や地域社会からの評価等についての把握が不十分であるという課題が残った。

そこで、震災後5年を契機に改めて災害時における社会福祉協議会と宗教施設の連携の現状や可能性について、東日本大震災当時の状況把握を手がかりとして、岩手県・宮城県・福島県の沿岸地域を中心にアンケート及び訪問聞き取り調査を実施して、「支援を受けた側」からの評価を明確にするとともに、今後の災害時における仏教(宗教)と地域社会の相互連携の在り方や方向性を明らかにしていくことを、主たる目的とする。

(調査対象)

2011年3月の東日本大震災に際して、各種ボランティアの受け入れ対応を担った岩手県・宮城県・福島県の沿岸地域を中心とした社会福祉協議会を対象とする。

計32協議会+ $\alpha$ (実質45ヶ所程度)

(調査方法)

自記式の調査票を用いた郵送回収調査法

調査票の質問項目の確定など実施準備に時間がかかり、2016年11月からの調査開始となった。その結果、当初は2016年度中に調査を完了する計画に対し、関連箇所も含めて21ヶ所の調査実施に留まった。

##### B) 「仏教社会的実践活動プラットフォーム(仏教プラットフォーム)」の稼働

(概要)

当研究所が文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」の一環として開設運営するWeb上のサイト。寺院や仏教系の諸団体などが、支援を必要とされている方々や地域で暮らす様々な人々までを対象とした幅広い社会的実践活動を行なっているが、これまで宗派教団の垣根を越えたインターネット上のネットワークは存在しなかった。そこで、地域社会の中で日頃から行なわれている仏教関係団体の社会的実践活動とその記録を一堂に集めて紹介し、お互いに情報交換や情報共有をして、ゆるやかな連帯・協働をはかるとなる「場」を提供することで、活動のより一層の活性化や社会への認知を図るとともに、一般の利用者の方々に対しては、身近なサービス情報やボランティア情報を得ることのできるプラットフォームを構築した。更に、広く一般の方に情報を発信するとともに、他団体との交流、サービス利用者やボランティアとのマッチング、活動記録の保存などに活用することができる。日頃から緩やかなつなが

りを持つこうした社会基盤こそ、将来、緊急災害時にも必ずや役にたてるものと確信する。

(開 設)

Web上へのデモ版は前年度に完成していたが、実際の運用に当たっての規約の整備や運営体制の判断等が遅れ、Web上の公開は2017年3月にずれ込んだ。

・HP <https://bukkyoplatform.com/>

#### 5) 2016年度の総括(藤森 雄介記)

この機会に、「国内開発」の背景について簡単にふれておきたい。

「国内開発」に関する研究活動については、その萌芽を2011年まで遡ることができる。

同年3月11日の東日本大震災を受け、日本仏教社会福祉学会(以下、学会という)の4月23日の理事・役員会において、まず被災地の記録をまとめていくこと、また、学会ならではの仏教的視点を持った支援のあり方、寺院を拠点とした活動のあり方について検討していくことを目的として「東日本大震災対応プロジェクト委員会」が設置されたが、縁あって、その委員長の任を筆者(藤森)が担うことになったのが端緒である。

同委員会としての活動内容を検討する中で、宗派教団や寺院、仏教者がどういった活動を行ったのかを改めて確認し記録化する必要性を痛感し、その調査対象を把握している全日本仏教会(以下、全日仏という)に協力を要請して快諾を頂いた結果、まず学会と全日仏の協働調査として、全日仏に加盟している宗派教団に対して、東日本大震災における日本仏教各宗派教団の取り組みに関するアンケート調査を2012年1月に実施した。続いて、「さまざまな災害に寺院はどう備えるのか」といった点に関心をもっていた、仏教NGOネットワーク(以下、BNNという)も調査に加わり、3団体の協働調査として、岩手県、宮城県、福島県の3県の被災地域において避難所等の役割を担った各寺院に対して、被災寺院の教訓を今後の寺院防災に活かす聞き取り(アンケート)調査を2012年の7月に、また、被災地において直接的な支援を含めて様々な活動を展開した仏教系の各種団体に対して、東日本大震災における仏教系各種団体の震災支援に関するアンケート調査を2012年10月に、それぞれ実施した。

この3つの調査の分析を通じて明らかとなった諸課題が、現在進めている東日本大震災被災地域の社会福祉協議会へのアンケート調査や、仏教社会的実践活動プラットフォームの構築へと繋がっているのである。

改めて、2016年度の「国内開発」の総括について述べれば、上記の先行研究の成果等を踏まえ、またそこで明らかとなった諸課題を、アンケート調査の内容やプラットフォーム構築にどのように落とし込むのかについて時間を費やした一年であった。

限られた時間の中で当初の計画通りに研究を進められなかったという反省はあるが、着実に研究活動の足場作りをすることができたとも考えている。

## 10. 国際学術フォーラム

### (1) 概 要

アジア国際社会福祉研究所主催により、2017年3月22-23日の2日間にわたり第2回淑徳大学国際学術フォーラム テーマ「アジアの仏教は人びとの生活の問題にどうはたらくか—仏教ソーシャルワークの探求—」を、三井ガーデンホテル千葉にて開催した。海外の9ヶ国から19名を招き、各国の仏教寺院が実践しているソーシャルワーク活動調査について報告された。本報告は2016年度文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の一環として実施された調査の中間報告をなすものである。

表1 海外招聘者リスト

	氏名	氏名(ヨミ)	所属	職位	国
1	Chun Bora	チャン・ボラ	プノンペン王立大学社会科学 人文学部ソーシャルワーク学科	教授	カンボジア
2	Vichith Keo	ビチット・ケオ	シアヌーク・ラジャ仏教大学哲 学部	講師	カンボジア
3	H.M.D.R. Herath	H.M.D.R. ヘラ	ペラデニヤ大学社会学部	上級教授	スリランカ
4	M.Y.S. Deshapriya	M.Y.S. デシャプリヤ	マンアー地方行政局	局次長	スリランカ
5	N.H.M. Chithrananda	N.H.M. チトラナンダ	ブットラム地方行政局	局次長	スリランカ
6	P.A.S. Malan Appuhami	P.A.S. マラン・アップハミ	スモール・フィッシャーズ連盟 (NGO)	会計	スリランカ
7	W.K. Anuradha Wickramasinghe	アヌラダ・ウィクラマシンハ	スモール・フィッシャーズ連盟 (NGO)	議長	スリランカ
8	Suttina	サッティーナ		通訳	タイ
9	Phramaha Surakrai Jinabuddhisiri (Congboonwasana)	スラカイ師	マハマクット仏教大学	講師	タイ
10	Sopa Onopas	ソパ・オノパス	タイ・ソーシャルワーク専門職 協会	事務局長	タイ
11	Rajendra Bahadur Thapa	ラジェンドラ・バハドゥル・ タパ	ルンビニ開発基金・ルンビニ仏 教大学博士課程在学中、ティリ コ・グループ・マネージン	元事務局スタッ フ、博士課程在 学中	ネパール
12	Dorji Thinley	ドルジ・ティンレイ	ブータン王立大学サムゼ教育 学カレッジ	学長	ブータン
13	Nguyen Hoi Loan	グエン・ホイ・ロアン	ベトナム国家大学社会科学 人文学部社会学部(ハノイ)	ソーシャルワー ク学科長	ベトナム
14	Nguyen Thi Kim Hoa	グエン・ティ・キム・ホア	ベトナム国家大学社会科学 人文学部社会学部(ハノイ)	人口・環境学学 科長	ベトナム
15	Nguyen Thi Thai Lan	グエン・ティ・タイ・ラン	ベトナム国家大学社会科学 人文学部社会学部(ハノイ)	ソーシャルワー ク学科講師	ベトナム
16	Bobby	ボビー	ネットワーク・アクティブ・グ ループ(NGO)	主任	ミャンマー
17	Tumeekhuu Bulgan	トゥメークウ・ブルガン	モンゴル国立大学哲学宗教学部	助教	モンゴル
18	Oyut-Erdene Namdaldagva	オユ エルデネ・ナムダル ダグヴァ	モンゴル国立教育(師範)大学 教育学部ソーシャルワーク学科	上級講師	モンゴル
19	Outhoumphone Sanesathid	オウトムフォン・サネサシッド	ラオス国立大学社会科学部	調査研究部門長	ラオス



## (2) 出席者

海外9ヶ国（ブータン・カンボジア・ラオス・モンゴル・ミャンマー・ネパール・スリランカ・タイ・ベトナム）から19名が参加し、国内からはプログラム研究員及び学外の希望者が2日間で述べ31名のほか、マスコミ関係者4名（中外日報、仏教タイムス、フリーランス・ライター、カメラマン）の参加があった。海外招聘者の氏名及び所属は表1を参照。なお、スリランカからの招聘者については、このフォーラム閉会後の24日、当研究所にて開催されたプラクティス・ベイスド・リサーチ（PBR）プロジェクトの最終報告会（フォーラム・プラス）にも参加した。

## (3) 日程・スケジュール

### ① 2017年3月22日（初日）

- 9：30 開会の挨拶 磯岡 哲也（淑徳大学副学長）  
プロジェクト及びフォーラムの概要・趣旨説明  
・「国際学術フォーラムの枠組み」秋元 樹（淑徳大学アジア国際社会福祉研究所所長）
- 10：00 各国レポート① ミャンマー  
・「パラヒタ“Parahita” ミャンマーにおける仏教ソーシャルワークのモデル例」  
ボビー（Bobby）、ネットワーク・アクティブ・グループ（Network Activities Group）
- 10：25 各国レポート② カンボジア  
・「カンボジアにおけるソーシャルワーク教育の進展」  
チャン・ボラ（Chun Bora, MSW）、プノンペン王立大学（Royal University of Phnom Penh）  
・「カンボジアにおける仏教ソーシャルワークの現状」  
ヴィチェット・ケオ（Vichith Keo）、シアヌーク・ラジャ仏教大学（Preah Sihanouk Raja Buddhist University）
- 10：55 ティー・ブレイク
- 11：30 各国レポート③ モンゴル  
・「モンゴルでの仏教ソーシャルワーク」  
トゥメークウ・ブルガン（Tumeekhuu Bulgan）、モンゴル国立大学（National University of Mongolia）  
・「モンゴルの仏教ソーシャルワークの特徴」  
オユ エルデネ・ナムダルダグヴァ（Oyut-Erdene Namdaldagva）、モンゴル国立教育大学（Mongolia National University of Education）
- 12：00 各国レポート④ ブータン  
・「ブータンでの仏教ソーシャルワーク—代表的なケース—」  
ドルジ・ティンレイ（Dorji Thinley）、ブータン王立大学サムゼ教育大学（Samtse College of Education, Royal Bhutan）
- 12：30 ランチ・ブレイク
- 13：30 各国レポート⑤ タイ  
・「タイにおける仏教ソーシャルワークの発展」  
スカライ師（Phramaha Surakrai Congboonwasana）、マハマクット仏教大学（Mahamakut Buddhist University）  
ソパ・オノパス（Sopa Onopas）、タイソーシャルワーク専門職協会（Social Work Profession Council）



- 14:00 各国レポート⑥ ラオス  
 ・「ラオスにおける仏教ソーシャルワークの現状」  
 オウトムフォン・サネサシッド (Outhoumphone Sanesathid)、ラオス国立大学 (National University of Laos)
- 14:30 ティー・ブレイク
- 15:00 各国レポート⑦ ネパール  
 ・「ネパール社会における仏教ソーシャルワーク」  
 ラジェンドラ・バハドゥル・タパ (Rajendra Bahadur Thapa)、ルンビニ仏教大学 (Lumbini Buddhist University)
- 15:30 各国レポート⑧ ベトナム  
 ・「ベトナムにおける仏教ソーシャルワークの現状」  
 グエン・ティ・キム・ホア (Nguyen Thi Kim Hoa)、グエン・ティ・タイ・ラン (Nguyen Thi Thai Lan)、ベトナム国家大学社会科学人文学大学 (Vietnam National University, USSH)
- 16:00 理事長挨拶 長谷川 匡俊 (大乘淑徳学園理事長)
- 17:00 プレスリリース  
 「アジア仏教ソーシャルワーク研究ネットワーク」結成のプレスリリース



② 2017年3月23日 (二日目)

- 9:30 スピーチ  
 ・「仏教ソーシャルワークの作業枠組みの構築」  
 秋元 樹 (淑徳大学アジア国際社会福祉研究所所長)
- 9:55 基調講演①  
 ・「アジアの仏教は、人々の生活にどう関わっているのか？」  
 H.M.D.R. ヘラ (H.M.D.R. Herath)、ペラデニヤ大学社会学部 (University of Peradeniya)
- 10:20 基調講演②  
 ・「ベトナムの仏教 — 慈善から仏教ソーシャルワークへ—」  
 グエン・ホイ・ロアン (Nguyen Hoi Loan)、ベトナム国家大学社会科学人文学大学 (Vietnam National University, USSH)
- 10:55 基調講演③  
 ・「グリーンソーシャルワークに焦点を当てた仏教ソーシャルワーク」  
 アヌラダ・ウィクラマシンハ (Anuradha Wickramasinghe)、スリランカスモール・フィッシャーズ連盟 (Small Fishers Federation of Sri Lanka)

- 11:35 感謝状贈呈式  
 アジア仏教ソーシャルワーク研究ネットワーク設立の一番のきっかけを作った二人の功労者  
 グエン・ホイ・ロアン先生(ベトナム)とアヌラダ・ウィクラマシンハ氏(スリランカ)の功績に  
 対して感謝状を贈呈。
- 12:00 ランチ・ブレイク
- 13:00 グループディスカッション(2会場に分かれて)
- 1) 第1会場 司会: 郷堀 ヨゼフ(アジア国際社会福祉研究所上席研究員)
- 宗教、国家、倫理、法的枠組みをキーワードに議論が展開されたが、最も重要な課題として、  
 仏教そのものの役割について検討した。ソーシャルワークを念頭に置いて、仏教とその他の宗  
 教の違いは何かについて、仏教が単に人間だけでなく、全ての生きとし生けるものが対象にな  
 る特徴が見出され、さらに、慈悲、親切心、共感、そして思いやりが仏教の特徴として指摘さ  
 れたなど、今後の議論を展開させていくために、数多くの論点について確認できた。
- また、複雑化している今日の社会に対してアプローチする際に、現代の技術、西洋型ソーシャ  
 ルワークの方法とそれらの実践を、どのように仏教、仏教文化、ブッダの教えとコラボさせる  
 かについて、時間をかけて議論した。
- 2) 第2会場 司会: 松尾 加奈(アジア国際社会福祉研究所主任研究員)
- 今年度になり新規参入した海外チームが集まった第2会場では、田宮顧問と松尾がファシリ  
 テーターとなり各国における「ソーシャルワーク」「福祉」と類する母国の言葉とその示す内容  
 を共有した。ソーシャルワーク教育が始まっていないブータンの事例、社会に福祉のシステム  
 が確立している日本における仏教のソーシャルワークに代替する機能事例が紹介され、仏教  
 ソーシャルワークの枠組み策定に向け参加者の意見を求めた。
- 14:30 会場移動 ティー・ブレイク
- 14:40 シェアリング・セッション(各グループの話し合いのシェアリング)
- 1) ファシリテーターによる各グループセッションの報告  
 第1会場をヨゼフが、第2会場を松尾がそれぞれ報告
- 2) 参加者による質疑応答、コメント
- 15:30 閉会挨拶 秋元 樹
- 18:00 クロージングレセプション
- 進行: 藤森 雄介(アジア国際社会福祉研究所所長補佐)  
 乾杯: ソパ・オノパス(タイソーシャルワーク専門職協会)  
 挨拶: 秋元 樹
- 20:00 終了・解散

#### (4) 総括(松尾 加奈記)

本フォーラムの主たる目的は次の2点である。

- ① 本研究所が各国調査チームに対し2016年度末に提出を求めている最終報告書の進捗の確認
- ② 仏教ソーシャルワークのワーキング・フレームワークの検討

これらの目的は、いずれも達成できた。また、このフォーラム開催にあたって各調査チームに対して20  
 分のプレゼンテーションとその要約の提出を求め、発表資料(パワーポイント)については全て日本語に翻  
 訳し英文資料とともに会場にて配布された。これらの資料と、母国語による発表者については通訳を自国か

ら帯同したことにより、各参加者は言葉の壁を越えての活発な意見交換が実現した。

さらに、22日夕方の記者会見において参加者らにより「アジア仏教ソーシャルワーク研究ネットワーク」結成が宣言された。このネットワーク結成を通じて交流が始まった研究者・参加者がフォーラムという場で一堂に会することにより情報交換の重要性をそれぞれが再認識し、国際会議の共同開催や人材交流、更なる共同研究の提案が交わされた。各参加者は人材交流や情報の共有などの面で、淑徳大学アジア国際社会福祉研究所がハブとして機能することにより本ネットワークの活性化が図られるとし、本研究所の今後の活動へ大きな期待を寄せていた。

## 11. 収集資料

- |        |   |      |            |
|--------|---|------|------------|
| (1) 和書 | 近代化と伝統の間—明治期の人間観と世界観等                           | 265冊 | 2,749,632円 |
| (2) 洋書 | Handbook of Social Justice Theory and Research等 | 62冊  | 1,082,696円 |

## 12. 広 報

- (1) 大学HP <http://www.shukutoku.ac.jp/shisetsu/asiancenter/>
- (2) 研究所HP <https://www.ariisw.com/>
- (3) Facebook
  - ① 日本語版 <https://www.facebook.com/アジア国際社会福祉研究所-195310717485560/>
  - ② 英語版 <https://www.facebook.com/ariisw.shukutoku/>
- (4) 動画 (YouTube) [https://www.youtube.com/playlist?list=UUF6h7wkpX2B\\_zQCS2XxU3HA](https://www.youtube.com/playlist?list=UUF6h7wkpX2B_zQCS2XxU3HA)
- (5) 「アジア国際社会福祉研究所kara」(広報紙リーフレット)
  - No. 1 2016年4月5日刊  
「アジア国際社会福祉研究所 開所式(4月1日)御礼」
  - No. 2 2016年5月19日刊  
「ビジティング・リサーチャー論博プログラム募集開始」
  - No. 3 2016年7月5日刊  
「ソウルで世界ソーシャルワーク会議開催&ブラジルから2教授研究所を訪問」
  - No. 4 2016年7月27日刊  
「ビジティング・リサーチャー論博プログラム(奨学金付き)第1回合格者発表!」
  - No. 4-2 2016年7月26日刊  
「タイ王国から来日中の9名が本学を訪問予定!」
  - No. 5 2016年8月15日刊  
「ASEAN経済共同体国際会議(カンボジア)で発表しました!」
  - No. 6 2016年11月30日刊  
「宗教とソーシャルワーク: イスラム“ソーシャルワーク”はどのように行われているのか」
  - No. 6-2 2016年12月2日刊  
「スリランカの仏教ソーシャルワーク教育学院から訪問団が来校します」
  - No. 7 2016年12月22日刊  
「アジア国際社会福祉研究所は開所8ヶ月が経ちました!」

・No. 8 2017年2月24日刊

「3月22日～23日アジアの仏教主要9ヶ国を招待 国際学術フォーラムが開催されます」

(6) 研究所紹介パンフレット(和文・英文)

### 13. 経 費(予算・決算)

事業行事名			(円)	(%)
	予算額	執行額	残高	執行率
アジア交流センター活動費	8,000,000	6,505,744	1,494,256	81.3
私立大学戦略的研究基盤形成支援事業	30,000,000	28,750,410	1,249,590	95.8
合計	38,000,000	35,256,154	2,743,846	92.8

### 14. 2016年度全体総括(秋元 樹記)

発足時に不完全な組織体制の下、少人数の新メンバーの集合体でありながら、4月からの活動はセンター時代からの引き継ぎを受けほぼフル回転の状態動き出さざるをえなかった。研究所9活動分野別の年間の主な活動を振り返ると、次のような広範なものとなった。

- (1) 国際共同研究：文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業(以下、支援事業と略す)(海外16中12SP稼働中+国内P)；PBR(スリランカ)3月末終了
- (2) 国際会議開催：淑徳大学社会福祉学会第26回大会(11月)、日本社会事業大学主催の第25回環太平洋社会福祉セミナーの第1セッション「宗教とソーシャルワーク：イスラム“ソーシャルワーク”はどのように行なわれているのか」を日本社会事業大学と共催(12月)、第2回国際学術フォーラム・PBR最終ワークショップ開催(3月)
- (3) 出版：宗教とソーシャルワーク(イスラム「ソーシャルワーク」)；第2回国際学術フォーラムプログラム；叢書0(ゼロ)号出版(校正中・2017年刊行)
- (4) 図書・文献収集・提供：購入図書および寄贈図書の整理；研究所活動過程で入手したすべての資料・データの整理と諸国との共有化を旨とする方向性の合意
- (5) 人材養成：ビジティング・リサーチャー論博プログラム発足
- (6) 他国大学支援：スリランカ仏教ソーシャルワークカリキュラムデザイン；ブータンソーシャルワークプログラム発足協力
- (7) 国際組織貢献：APASWE 会長オフィス機能；同ブース運営(ソウル)；ICSD(International Consortium for Social Development) アジア太平洋会議招待出席(スリランカ)
- (8) 人的・組織的交流：ブラジル、タイ、コロンビア、韓国、マレーシア、スリランカからの訪問
- (9) 研究会組織：支援事業全体会； 研究員研究会(逐次)

さらに加えて、一般的研究所組織運営のほか次のような活動も行なわれている。

- ・研究会組織研究成果発信：ソウル世界会議(菊池)；日本共生科学会(松尾)；愛媛県社会福祉士会(秋元)；ロシアサミット(ヨゼフ)；カンボジア仏教会議(ヨゼフ)ほか
- ・支援事業：学内外への国際研究機会の提供； アジア仏教ソーシャルワーク研究ネットワーク；国内活動短信“kara”、国内外Facebook発信
- ・PR(広報)：Webサイト、リーフレット、“kara”、Facebook
- ・Fund-raising：科学研究費補助金応募、JICA草の根応募準備

1年を終え、2017年度に向け特に記すべき課題は、次の4点であろう：

- (1) 専任事務スタッフ、総括研究員、センター長、数人の「非正規」研究・事務補助スタッフ等が未配置のままである。特に専任事務スタッフは前述(p.4)の通り研究所の維持、組織運営のノウハウの蓄積と継承などの重要な任を担う。しかしながら、現況は専任研究員が本来であれば事務室機能としてなされるべき業務の相当部分を担わざるを得ず、そのことにより研究員本来の研究業務への時間とエネルギーの投入が限られ、研究所の研究自体の前進の妨げとなっている。
- (2) 支援事業の遂行をするために、海外全サブプロジェクト+国内プロジェクトを走らせマネジメントし、成果をまとめ、さらに事業ゴール達成の研究プロジェクトを進め、毎年国際学術フォーラムを組織・開催することとなり、研究所総業務量、予算規模の7～8割をこれらに費し研究所の本来あるべき姿を大きく歪めることとなっている。
- (3) 大学院と連携するビジティング・リサーチャー論博プログラムを走り出させ、第1回のビジティング・リサーチャーを迎えた。アジアに淑徳の名を馳せる効果は絶大なものがあるが、このプログラムを維持運用するための研究所の投入エネルギーは他諸活動に比し相当なものとなっている。
- (4) 支援事業以外の研究所独自の調査研究として、科学研究費補助金を利用したPBRを実施完了したが、2017年度以降も最低一つは独自調査研究を維持すべきものとする。

## 15. 資料

(1) 国際共同研究、他国大学等への協力、講演、研究報告、国際組織への貢献、出版物など

### ① アジア国際社会福祉研究所 設立以前

#### A) 国際共同研究、他国大学等への協力

- An exploratory visit to Berkley Center for Religion, Peace and World Affairs, Georgetown University, Washington D.C., 12 June 2014.
- Interview for the APASWE history review research with Janet George, former president of APASWE, Sydney, Australia, 15 July 2014.
- Field visit for USSH-VNU/JCSW/Shukutoku Joint Research, “Religion and social work—the case of Buddhism,” Hue and Ho Chi Min City, Vietnam, 2-8 August 2014.
- The final workshop of USSH-VNU/JCSW/Shukutoku Joint Research, “Religion and social work—the case of Buddhism,” USSH-VNU, Hanoi, Vietnam, 8-9 December 2014.
- “Islam and social work” project exploratory mission, Prof. Adi Fahrudin, University of Muhamadiyah, etc. Jakarta, Indonesia, 16-17 March 2015, and “Practice-based research: Sri Lanka Buddhist ‘social work’ curriculum design,” monitoring, Anuradhapura and Polonnaruwa, Sri Lanka, 20-21 March 2015, etc.
- Meetings for October 50th Anniversary Forum with Ms. Sopa Onopas, Secretary General of Thai Social Work Professions Council, Bangkok, Thailand, 7-8 August 2015.
- “Practice-based research: Sri Lanka Buddhist ‘social work’ curriculum design,” monitoring, dissemination workshops, and discussion with Monks University to introduce the social work program, Anuradhapura and Polonnaruwa, Sri Lanka, 22-24 January 2016.

#### B) 研究成果の発信、交流、研究報告等

- “The application of practice-research at macro level in social work: A study on curriculum design by Sri Lankan Buddhist monks,” in the Third International Conference on Practice Research, “Building bridges

not pipelines: Promoting two-way traffic between practice and research,” Hunter College, City University of New York, 9-11 June 2014.

- “Human resource policy framework: Is professionalization the way we take? Rejection of ‘social work=professional social work’,” Social Work Day International Conference, “Reality and Integration in Social Work Development in Vietnam,” Vietnam Youth Academy, Hanoi, 10 November 2014.
- “The meaning and summary of ‘Buddhist “social work” activities in Asia’,” in Social Work Education Workshop, Sri Lanka Lumbini Development Trust Fund, Lumbini, Nepal, 26 December 2014.
- “Social work world map has changed,” and “The new definition of social work profession, developed by IFSW and IASSW,” in Eurasia Forum, “Transforming society: New directions and advanced models of social development,” Union of Social Pedagogues and Social Workers, Russia, at Yakutsk, 8 June, 2015.
- “What social work do you want?—Towards the third stage of social work” (Keynote speech at the closing session) in International Conference, “Professional Social Work in SE Asian: Education and Qualification”, Royal University of Phnom Penh, and Cambodia Association of Social Workers, 21-22 July 2015.
- “Proposals to professional social work: Prepare for global crisis, rejecting IA/IF global definition,” in Plenary Session, “Social work and policy in response to global crisis,” APASWE/IFSW (AP) Regional Conference, Bangkok, Thailand, 23 October 2015.

#### C) ソーシャルワーク国際組織への貢献

- International Steering Committee (ISC) meetings for IASSW, IFSW and ICSW 2014 Melbourne and 2016 Seoul World Conferences, IASSW board meetings and the general body meeting, APASWE board meetings, APASWE regional workshop on the regional definition of social work, Melbourne, Australia, 8-14 July 2014.
- International Steering Committee meetings for IASSW, IFSW and ICSW 2016 Seoul and 2018 Ireland World Conferences, and IASSW board meeting, University of British Columbia, USA, 20-23 January 2015.
- Welcome speech at the opening session as the APASWE representative, APASWE Board Meeting and General Body Meeting, and “Regional definition workshop”, etc., APASWE/ IFSW (AP) Regional Conference, Bangkok, Thailand, 22-24 October.

#### D) 出版物 \*「文部科学省 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」助成

- 秋元樹「淑徳、アジアにおけるソーシャルワーク研究のハブとなる—アジア仏教社会福祉学術交流センターの誕生と初動」『アップ・トゥー・デート』(仏研ブックレット) No.37. 長谷川仏教文化研究所. 2014年12月. pp.2-17.
- Akimoto, Tatsuru, hd. Sakamoto, Etsuko, ed. The Roles of Buddhism in Social Work—Vietnam and Japan. Shukutoku University, USSH-VNU, and JCSW, March 2015.
- Hasegawa, Masatoshi, Dozono, Yoshie, tr. & ed. TOGETHER WITH HIM—The Life of Ryoushin Hasegawa, Shukutoku University Asian Center for Social Work Research, 2015.
- \* 全日本仏教会 他監修 淑徳大学藤森研究室 他編著「平成23年3月11日東日本大震災における仏教系各種団体の震災に関するアンケート調査」報告書 第3版 平成27年10月(文部科学省平成27年度助成)
- \* 全日本仏教会 他監修 淑徳大学藤森研究室 他編著「東日本大震災における日本仏教各宗派教団の取組みに関するアンケート調査」報告書 第3版 平成27年10月(文部科学省平成27年度助成)
- \* 全日本仏教会 他監修 淑徳大学藤森研究室 他編著「被災地寺院の教訓を今後の寺院防災に活かす聞き取り票(アンケート調査)」報告書 第3版 平成27年10月(文部科学省平成27年度助成)

- \* Akimoto, Tatsuru, hd. Kikuchi, Yui, ed. Buddhist “Social Work” Activities in Asia, October 2015. (文部科学省平成27年度助成)
- \* 藤森雄介編「全日本仏教会『災害支援情報交換会』報告書」平成28年3月(文部科学省平成27年度助成)
- \* 秋元樹監. 郷堀ヨゼフ編「仏教“ソーシャルワーク”と西洋専門職ソーシャルワーク 次の第一歩」2016年1月(文部科学省平成27年度助成)
  - 第1部 アジアにおける仏教“ソーシャルワーク”の現状  
(2015年10月8日開催のワークショップの記録)
  - 第2部 仏教“ソーシャルワーク”と西洋専門職ソーシャルワーク 次の第一歩  
(2015年10月9日開催の淑徳大学創立50周年記念国際学術フォーラムの記録)
- \* Akimoto, Tatsuru, sv. Gohori, Josef, ed. Buddhist “Social work” and Western-rooted Professional Social Work—The next first step—(Proceedings), January 2016. (文部科学省平成27年度助成)
- \* Akimoto, Tatsuru, sv. Matsuo, Kana, ed. Islamic Social Work Practice: Experiences of Muslim Activities in Asia, March 2016. (文部科学省平成27年度助成)

## ② アジア国際社会福祉研究所 設立後

出版物(出版物以外は、「p.28～52 5.出張～10.国際学術フォーラム」を参照。

- \* 「宗教とソーシャルワーク ～仏教の場合～イスラム教の場合～」2016年9月(文部科学省平成28年度助成)  
日本社会事業大学主催・淑徳大学アジア仏教社会福祉学術交流センター共催「第24回環太平洋社会福祉セミナー アジア型ソーシャルワークを構築する」2015年12月12・13日の会議録の増し刷り
- \* Akimoto, Tatsuru, sv. Fujioka, Takashi, hd. Matsuo, Kana, ed. Religion and Social Work: How Does Islamic "Social Work" Operate in Asia? March 2017. 日本社会事業大学との共同研究報告書(文部科学省平成28年度助成)
- \* “How is Asian Buddhism Involved in People’s Life?” Shukutoku University 2nd International Academic Forum on Buddhist Social Work Program, March 2017 (文部科学省平成28年度助成)  
「第2回淑徳大学 国際学術フォーラム 仏教ソーシャルワーク アジアの仏教は人びとの生活の問題にどうはたらくか」プレゼンテーション資料 2017年3月
- \* Akimoto, Tatsuru, sv. Gohori, Josef, and Etsuko, Sakamoto, ed. How is Asian Buddhism involved in People’s Life? Shukutoku University 2nd International Academic Forum on Buddhist Social Work Proceedings, September 2017 (文部科学省平成29年度助成)
- \* 秋元樹監、郷堀ヨゼフ、佐藤成道編 「第2回淑徳大学 国際学術フォーラム 仏教ソーシャルワーク：アジアの仏教は人びとの生活の問題にどうはたらくか—仏教ソーシャルワークの探求— —アジア仏教ソーシャルワーク研究ネットワークの形成—」報告書 2017年11月(文部科学省平成29年度助成)
- \* Gohori, Josef, Akimoto, Tatsuru, Fujimori, Yusuke, Kikuchi, Yui, and Matsuo, Kana, ed. From Western-rooted Professional Social Work to Buddhist Social Work: Exploring Buddhist Social Work (Research Series No.0), Gakubunsha, 2017 (文部科学省平成29年度助成)
- \* Nguyen Hoi Loan, ed. Nguyen Thi Thai Lan, et al. Vietnam Buddhism: From Charity to Buddhist Social Work: Exploring Buddhist Social Work (Research Series No.2), Gakubunsha, 2017 (文部科学省平成29年度助成)
- \* Gohori, Josef, and Ogawa, Hiroaki, ed. Growth of the Buddhist Social Work Activities in Mongolia (Research Series No.1), Gakubunsha, 2018 (文部科学省平成29年度助成)

## (2) 淑徳大学アジア国際社会福祉研究所関係規程類

### 淑徳大学 アジア国際社会福祉研究所規程

#### (設 置)

第1条 淑徳大学学則第7条第2項に基づき、淑徳大学アジア国際社会福祉研究所（以下「研究所」という。）を置く。

#### (目 的)

第2条 研究所は、アジア及び世界における国際社会福祉研究の向上に寄与するとともに、研究成果の社会還元を目的とする。

#### (事 業)

第3条 研究所は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- 一 アジアを中心とする国際的な社会福祉・ソーシャルワークに関する調査・研究
- 二 アジアにおける仏教社会福祉・ソーシャルワークに関する調査・研究
- 三 その他研究所の目的を達成するために必要な事業

#### (アジア仏教社会福祉学術交流センター)

第4条 研究所に前条第二号に定める業務を行うためアジア仏教社会福祉学術交流センター（以下「センター」という。）を置く。

#### (構 成)

第5条 研究所に次の所員を置く。

- 一 所長
- 二 センター長
- 三 研究員

2 所長は、研究所の代表として所務を統括する。

3 センター長は、センターの代表として所務を統括する。

#### (顧 問)

第6条 学長は、必要に応じて研究所に最高顧問及び顧問を置くことができる。最高顧問は、研究所の管理運営及び研究その他活動について意見を述べることができる、また、顧問は、所長の諮問に対し意見を述べることができる。

#### (研究所運営委員会)

第7条 研究所に研究所運営委員会を設置する。

2 研究所運営委員会に関する事項は、別に定める。

#### (所長の選任・任命・任期)

第8条 所長は、大学人事委員会の議を経て学長が選任し、理事長がこれを任命する。任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

#### (センター長の選任・任命・任期)

第9条 センター長の選任は、研究所運営委員会の推薦を得て、学長が委嘱する。センター長の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

#### (研究員の選任、任命・委嘱、任期)

第10条 研究員の選任、任命・委嘱及び任期は次の通りとする。

- 一 専任研究員は、研究所運営委員会の推薦を得て、大学人事委員会の議を経て学長が選任し、理事長が任命する。



二 兼担研究員の選任は、本学専任教員の中から研究所運営委員会の推薦により、所属学部長の了解を得て、学長が委嘱する。任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

三 兼任研究員の選任は、学外の研究者の中から研究所運営委員会の推薦により、学長が委嘱する。任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 研究員の研究所における資格・職務、職名等については、別に定める。

(事務)

第11条 事務は、研究所事務局がこれを担当する。

(規程の改定)

第12条 この規程の改正は、大学協議会の議を経て、学長が決定する。

附 則

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

#### 淑徳大学 アジア国際社会福祉研究所運営委員会規程

(設 置)

第1条 淑徳大学アジア国際社会福祉研究所規程第7条第2項に基づき、アジア国際社会福祉研究所運営委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(目 的)

第2条 委員会は、研究所の運営の適正と充実を図ることを目的とする。

(審議事項)

第3条 委員会は、次の事項を審議する。

- 一 研究所の施設、運営及び事業計画に関する事項
- 二 研究所の予算及び決算案に関する事項
- 三 その他、研究所運営に関して必要と認められた事項

(構 成)

第4条 委員会は、委員長、副委員長及び委員で構成する。

(委員の選任)

第5条 委員長、副委員長及び委員の選任は、研究所の所長が推薦した者から、学長が委嘱する。

(任 期)

第6条 運営委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

(委員会の招集)

第7条 委員長は、委員会を招集しその議長となる。委員長に事故あるときは、副委員長がこれに代わる。

2 委員会は、定例又は臨時にこれを招集する。

(事 務)

第8条 委員会に関する事務は、研究所事務局がこれを担当する。

(規程の改定)

第9条 この規程の改正は、大学協議会の議を経て、学長が決定する。

附 則

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

## 淑徳大学 アジア国際社会福祉研究所研究員規程

(目 的)

第1条 この規程は、淑徳大学アジア国際社会福祉研究所規程第10条第2項に基づき、淑徳大学アジア国際社会福祉研究所(以下「研究所」という。)の研究員の資格・職務・職名等について定める。

(専任研究員)

第2条 研究所所属の専任研究員(以下「研究所教員」という。)は、次の基準を満たす者とする。

- 一 国際社会福祉・ソーシャルワーク又は仏教社会福祉・ソーシャルワークにおける研究・実践実績
- 二 国際共同調査研究のプロジェクト・マネジメント力と実績
- 三 国際共同調査研究以外の研究所業務・活動(国際共同調査研究、国際会議(ワークショップ、セミナー、フォーラム等)の開催、出版、資料の収集、人材養成、海外大学等との協働、国際ソーシャルワーク組織への協力、海外研究者及び大学等との交流、研究会の開催・組織その他)の経験と遂行能力
- 四 研究所の管理運営

2 研究所教員の職名は、研究所教授、研究所准教授及び研究所助教とする。

3 研究所教員の職位は、研究所運営委員会の推薦を得て、大学人事委員会の議を経て、理事長が任命する。資格並びに職位の判定基準は別に定める。

(兼担研究員及び兼任研究員)

第3条 兼担研究員及び兼任研究員は、研究所からの委託を受けた特定の調査研究又は研究所の目的を達成するために必要な業務・活動を行う。研究所職名は、研究所研究員、研究所研究員補及び研究所訪問研究員とする。

2 兼任研究員のうち研究所研究員及び研究所研究員補は、博士後期課程を修了又は在学中の者又はそれに相当する者、あるいはそれに相当する実践・実務経験を持つ者とする。その資格・職務内容等は別に定める。

3 前項にいう研究所研究員及び研究所研究員補は、研究所運営委員会の推薦を得て、学長が委嘱する。

4 兼任研究員のうち研究所訪問研究員は、海外からのサバティカルその他の訪問者及び所属研究機関を持たない国内博士後期課程修了者又は在学中のもの又はそれに相当する者とし、研究所運営委員会の推薦を得て、学長が決定する。研究所訪問研究員は、研究所共同調査研究やその他の研究所業務に従事する義務を必ずしも負わず、研究の足場を提供されるものとする。

(規程の改定)

第4条 この規程の改正は、大学協議会の議を経て、学長が決定する。

附 則

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

淑徳大学アジア国際社会福祉研究所  
専任研究員の資格並びに研究所職位の判定基準に関する内規

(目的)

第1条 この内規は、淑徳大学アジア国際社会福祉研究所研究員規程第2条第3項に基づき、専任研究員の資格並びに職位の判定基準について定める。

(資格)

第2条 専任研究員が有すべき資格は、次の通りとする。

- 一 特定の国、国民、人種、民族等に特別の優位又は劣位の価値観を有さないこと。
- 二 原則として博士の学位を持つ者。国際社会福祉・ソーシャルワークを専門とする者についてはMSW(社会福祉修士；Master of Social Work)を有すること。
- 三 日本語及び英語を用い職務を遂行する能力を一定程度持つこと。
- 四 2年以上の海外留学、勤務、滞在の経験及び2年以上の国内実務経験を有すること又はそれに相当する経歴を有すること。
- 五 海外出張等の任に堪えうること。
- 六 淑徳大学アジア国際社会福祉研究所研究員規程第2条第1項に示した基準に関して強い関心を持ち、かつ優れた遂行能力を有すること。

(研究所教授)

第3条 研究所教授の職位判定基準は次の通りとする。

- 一 国際ソーシャルワーク又はアジア仏教社会福祉のいずれかの分野において深い理解と多くの国際共同研究の経験を持ち、他方の分野についても一定程度の理解と深い敬意を持つこと。
- 二 国際共同調査研究の経験を相当に持つとともに、独立して、自ら、特定の国際共同調査研究(プロジェクト)を企画・設計し、コーディネーター又はリーダーとしてチームを編成、管理運営しつつ、実施・成果をまとめることが出来、深刻なトラブルや緊急事態にも適切に対処できること。
- 三 国際共同研究以外の淑徳大学アジア国際社会福祉研究所規程第3条にいう研究所の事業のほとんどにおいて相当の経験を有し、いずれの業務・活動にも従事できるとともに、深刻なトラブルや緊急事態にも適切に対処できること。
- 四 研究所職務遂行・運営にあたっては、国際ソーシャルワーク又はアジア仏教社会福祉の双方に常に目を向けていることが出来るのみならず、国際ソーシャルワーク又はアジア仏教社会福祉のいずれかの分野において研究所の行う国際共同調査研究の全貌を把握し、企画・設計、運営が出来ること。また、淑徳大学アジア国際社会福祉研究所規程第2条にいう研究所の目的を視野に入れて研究所全体の管理運営に貢献することが出来ること。

(研究所准教授)

第4条 研究所准教授の職位判定基準は次の通りとする。

- 一 国際ソーシャルワーク又はアジア仏教社会福祉のいずれかの分野において相当に精通し、他方の分野にも興味を持ちかつ目を配ることが出来ること。
- 二 国際共同調査研究の経験を相当に持つとともに、独立して、自ら、特定の国際共同調査研究(プロジェクト)を企画・設計し、コーディネーター又はリーダーとしてチームを編成、管理運営しつつ、実施・成果をまとめることが出来ること。
- 三 国際共同研究以外の淑徳大学アジア国際社会福祉研究所規程第3条にいう研究所の事業のいくつかにおいて相当の経験を有し、例外を除きすべての業務・活動に従事できること。

四 研究所職務遂行・運営にあたっては、すべての業務・活動を視野に研究所全体の管理運営に関心を持ち、ある程度貢献することが出来ること。

(研究所助教)

第5条 研究所助教の職位判定基準は次の通りとする。

- 一 国際ソーシャルワーク、アジア仏教社会福祉のいずれかに一定の業績を持つこと。
- 二 独立して、自らの調査研究を企画・設計・実施・まとめが出来、その経験を持つこと。国際調査研究の経験を少なくとも1回以上持つこと又はそれに相当する経験を有すること。また、国際共同調査研究に興味を持ち、チームの一員として特定の国際共同調査研究を行うことが出来ること。
- 三 国際共同研究以外の淑徳大学アジア国際社会福祉研究所規程第3条にいう研究所の事業のいずれかに於いて一定の経験を有するとともに、例外を除きすべての業務・活動に従事できること。
- 四 研究所の全業務・活動をみわたせ、研究所の発展に関心を持つこと。

附 則

この内規は、平成28年4月1日から施行する。

#### 淑徳大学アジア国際社会福祉研究所

兼任研究員の研究所研究員及び研究所研究員補の資格・職務内容に関する内規

(目 的)

第1条 この内規は、アジア国際社会福祉研究所研究員規程第3条第2項に基づき、兼任研究員の研究所研究員及び研究所研究員補の資格・職務内容について定める。

(研究所研究員及び研究所研究員補の資格・職務内容等)

第2条 兼任研究員の研究所研究員及び研究所研究員補の資格・業務内容は、次の通りとする。

- 一 国際ソーシャルワーク、アジア仏教社会福祉のいずれかに興味を持つこと。
- 二 国際共同調査研究又は淑徳大学アジア国際社会福祉研究所規程第3条にいう研究所の事業に興味を持ち、研究所の委嘱を受け特定の国際共同調査研究又は研究所の事業に従事することができること。
- 三 研究員補は、研究員等の具体的指示・アドバイスを受けて、チームの一員として特定の国際共同調査研究又は研究所の事業に従事することが出来ること。

附 則

この内規は、平成28年4月1日から施行する。

#### 淑徳大学アジア国際社会福祉研究所

ビジティング・リサーチャー論博プログラム(奨学金付き)規程

(目 的)

第1条 この規程は、淑徳大学アジア国際社会福祉研究所(以下「研究所」という)規程

第3条第三号に基づき、ビジティング・リサーチャー論博プログラム(奨学金付き)(以下「プログラム」という)に関する必要事項を定める。

(内 容)

第2条 アジア諸国のソーシャルワーク教員・研究者及びソーシャルワークコミュニティのリーダーの人材養成に貢献するために、アジア諸国の主に大学 (Schools of Social Work) に所属する教員・研究者を奨学金付きでビジティング・リサーチャー (以下「リサーチャー」という) として研究所に迎え、日本の論文博士制度により Ph.D. 取得の機会を提供する。

(リサーチャー)

第3条 リサーチャーを公募する。

- 2 定員は年間1名とし、受入期間は2年以内とする。
- 3 選考は、ビジティング・リサーチャー論博プログラム (奨学金付き) 選考委員会 (以下「委員会」という) で選考し、学長が決定する。この委員会に関する規程は、別に定める。
- 4 リサーチャーとして受入期間中は、次の経費を支給する。
  - 一 居住地との往復エコノミー航空券 (片道×2) 及び来日準備金5万円
  - 二 受入期間中の住居費 (上限7万円)
  - 三 生活及び研究のための奨学金 (20万円/月)
- 5 学位請求論文提出及び審査を受ける期間中は、次の経費を支給する。
  - 一 学位請求論文提出時の論文要旨等日本語翻訳を他に依頼する場合には、翻訳料 (上限20万円)
  - 二 最終試験及び学力の確認の際の渡航旅費 (居住地との往復エコノミー航空券及び日本国内交通費及び宿泊費実費)
- 6 リサーチャーに対して、論文博士を取得するために必要なコースの一部または全部を提供する。コースの内容は、別表1に定める。
- 7 リサーチャーに関するその他の事項は、別に定める。

(学位論文提出候補者の推薦・学位)

第4条 リサーチャーは、本学大学院総合福祉研究科への学位請求論文提出にあたって研究所の推薦を得るためには次の条件を満たさなければならない。

- 一 学位請求論文が一定の研究水準に達していること
  - 二 第3条第6項で提供するコースをすべて履修し、修了していること
- 2 前項の条件を充足した者には、本学大学院総合福祉研究科に、博士 (社会福祉学) の学位請求論文の提出候補者として推薦を行う。

(招聘講師)

第5条 研究所は、リサーチャーに対しコースの指導をするために講師を招聘する。

- 2 招聘講師 (以下「講師」という) は、本プログラムの趣旨を理解しかつ各担当コース分野において優れた能力と実績を備えたものとする。
- 3 講師は、原則として学内及び国内外の大学教員の中から研究所が推薦し学長が委託する。
- 4 講師の委託期間は、業務委託契約書の有効期間に準ずる。ただし、再業務委託を妨げない。
- 5 講師には、所定の謝礼その他必要な費用を支払うものとする。
  - 一 原則として居住地との往復エコノミー航空券 (その他の諸経費を含む) 及び日本国内交通費実費
  - 二 宿泊費 1日12,000円 (上限)、10日間 (上限) の実費
  - 三 コース指導謝礼 1コースあたり30万円 (税別)
- 6 学長は、講師に事故その他業務委託を継続しがたい事由があると認めるときは、任期中にあってもこれを取り消すことができる。

7 講師の謝礼以外に経費が生じた場合は、研究所が負担する場合がある。

(アドバイザー)

第6条 研究所は、プログラムの実施及び運営に関し、アドバイスを取得するためにアドバイザーを委嘱する。

2 アドバイザーは、本プログラムの趣旨を理解しかつ国際社会福祉または仏教ソーシャルワーク分野においてすぐれた能力と実績を備えるものとする。

3 アドバイザーは、原則として学内および国内外の大学教員の中から研究所が推薦し学長が委嘱する。

4 委嘱期間は1年とする。ただし、再委嘱を妨げない。

5 学長は、アドバイザーに事故その他委嘱を継続しがたい事由があると認めるときは、任期中中においてこれを取り消すことができる

6 アドバイザーに関わる経費が生じた場合は、研究所が負担する場合がある。

(その他)

第7条 この規程の実施のために、必要がある事項については、学長がその都度決定する。

附 則

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

別表1 (第3条第6項)

調査研究法と調査研究設計Ⅰ：定量的調査
調査研究法と調査研究設計Ⅱ：定性的調査
事業計画・管理・評価調査
論文作成指導
国際社会福祉／ソーシャルワーク
日本語と日本文化
ソーシャルワーク原論
特別講義・セミナー

#### 淑徳大学アジア国際社会福祉研究所

#### ビジティング・リサーチャー(奨学金付き)に関する細則

(目的)

第1条 この細則は、「ビジティング・リサーチャー論博プログラム(奨学金付き)規程(以下「規程」という)」

第3条第7項に基づき、ビジティング・リサーチャー(以下「リサーチャー」という)に関わる事項について定める。

(応募資格)

第2条 リサーチャーに応募しようとする者は、次の各号に該当するものでなければならない。

一 修士の学位を授与された者。MSW(Master of Social Work)をもつことが望ましい。

二 研究論文分野が、国際社会福祉または仏教ソーシャルワークであること

三 博士論文のテーマ、枠組み、構想がすでに出来ており、受入期間内に論文提出が確実に可能であること。

四 規程第3条第6項別表1の淑徳大学アジア国際社会福祉研究所(以下「研究所」という)が提供するコースを履修／理解できること

五 日本国籍を有せず、かつ応募時に自国に実際に居住している者

六 研究能力、人柄及び英語能力の保証を含んだ推薦状3通とし、うち一通は所属機関（大学又は学部、あるいは所属組織）からの以下の内容を含むものとする。

ア リサーチャーである2年間、所属機関等の一切の職務・業務から解放されること

イ 日本で論文執筆に専念できること

ウ 帰国後の復職・身分保障がなされていること

（出 願）

第3条 リサーチャーに応募しようとする者は、所定の願書に第2条第六号の書類を添付して指定期日まで  
に研究所に願い出なければならない。

（選考基準）

第4条 選考の基準は第2条の要件に加え、提出された研究計画・研究業績の内容、レベル及びその準備進  
捗度合いによる。その内容、レベル及び準備進捗度合いが同等である場合には、次の優先順位が適用される。

ア アジア太平洋ソーシャルワーク教育連盟 (Asian and Pacific Association for Social Work Education:  
APASWE) の加盟校の教員

イ 同連盟に属さないソーシャルワーク関連大学または学部 (school) の教員

ウ 上記ア・イのいずれにも属さない研究者

（受入時期）

第5条 リサーチャーの研究所受入時期は、原則として10月1日とする。

（コース）

第6条 コースの実施責任者は、研究所専任研究員が担う。

2 コースの指導は招聘講師が行う。

3 コースの指導は、原則として「オンライン」で実施する。

4 各コースの修了者には、コースごとに研究所長名の修了書 (certificate) を発行する。

5 コースは原則として英語で実施する。

（日本に滞在していない期間の取扱い）

第7条 リサーチャーが、調査等の理由により日本を離れる場合の航空券等の旅費その他の諸経費は支給さ  
れない。また、そのために2週間以上日本を離れる場合、当該月の生活及び研究のための奨学金は日割  
りで支給する。

2 調査等の理由により日本を離れる期間は、原則として着任日より年間4週間以内とする。

3 受入期間内に日本を離れる場合は、事前に所定の書式を用いて研究所所長に願い出なければならない。

（奨学金の支給停止）

第8条 リサーチャーが次の各号の一つに該当すると研究所所長が認めた場合は、奨学金の受給資格を失う。

一 病気、家庭の事情、研究意欲の喪失その他により日本滞在又は研究執筆継続が不可能となったとき

二 真摯な研究執筆活動が継続していないと認められるとき

三 受入期間内の論文完成が不可能と認められるとき

四 本学及び研究所への信義則に反した行為があったと認められるとき

五 申請書類に虚偽の記載があることが判明したとき

六 日本の法令等に違反したとき

七 入管法別表第一の四に定める在留資格を失ったとき

八 他の奨学金の支給を受けたとき

九 その他、リサーチャーとして不適当と認められるとき

(返 還)

第9条 受給資格を失った場合は、既に支給された生活及び研究のための奨学金を次の算定方法により返還しなければならない。

$$\text{返還額} = \text{奨学金} \times \frac{\text{受給資格喪失と判断された日から月末までの日数}}{\text{当該月の日数}}$$

(その他の経費の支給)

第10条 リサーチャーの諸行事・文化活動及びアテンドに関わる諸経費が生じた場合は、別途研究所が負担する場合がある。

附 則

この細則は、平成28年4月1日から施行する。

### 淑徳大学アジア国際社会福祉研究所

#### ビジティング・リサーチャー論博プログラム(奨学金付き)選考委員会規程

(目 的)

第1条 この規程は、淑徳大学アジア国際社会福祉研究所(以下「研究所」という)のビジティング・リサーチャー論博プログラム(奨学金付き)規程3条第3項に基づいて設置する選考委員会(以下「委員会」という)の組織および運営方法等に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(役 割)

第2条 委員会は、研究所長の諮問に応じて、ビジティング・リサーチャーの選考を行なう。

(委 員)

第3条 委員は、研究所運営委員会の議決を経て研究所長が委嘱する。

2 委員の数は3名以上5名以内とする。

3 委員は、淑徳大学大学院総合福祉研究科より1名以上、研究所より1名以上、研究所顧問より1名以上とする。なお、必要により専門的知見を有する者1名以上を加えることができる。

4 委員の委嘱期間は1年間とする。但し、再委嘱を妨げない。

5 委員は、辞任または任期満了後でも、後任者が就任するまでは、前任の委員が、その職務を継続して執行する。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を1人おく。

2 委員長は、委員の中から互選により選出する。

3 委員長は、会議の議長となり、委員会の審議の経過および結果について研究所長に報告する。

4 委員長が欠け、または事故あるときは、あらかじめ指名された委員が、その職務を行ない、または代理する。

(会議の招集)

第5条 委員会は、必要に応じて随時、委員長が招集する。

(定足数)

第6条 委員会は、委員の過半数の出席がなければ議事を開くことができない。



(議 決)

第7条 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(書面表決)

第8条 やむを得ない理由のため、委員会に出席できない委員は、あらかじめ通知された事項について、書面をもって表決することができる。

2 前項の場合において、当該委員は、委員会に出席し、かつ、議決したものとみなす。

(委員以外の出席)

第9条 委員長は、必要があると認めるときは、委員会の同意を得て委員以外の出席を求め、その意見を聞くことができる。

(委員の機密保持)

第10条 委員は、審議の経過および結果については秘密を守らなければならない。

(議事録)

第11条 委員会の議事については、その経過の要領および結果を記録した議事録を作成する。

2 議事録には、議長が署名、押印するものとする。

(事 務)

第12条 委員会の事務は、アジア国際社会福祉研究所が行う。

(その他)

第13条 この規程の実施について必要な事項は、別に委員会が定める。

附 則

この規程は、平成28年4月1日から施行する。



*If at first the idea is not absurd, then there is no hope for it.*

— *Albert Einstein*

淑徳大学アジア国際社会福祉研究所年報  
アジア仏教社会福祉学術交流センター

第1号 2016年度

---

発行日 2018年3月1日  
編集責任者 相澤 修一郎  
発行責任者 秋元 樹  
発行者 淑徳大学アジア国際社会福祉研究所  
〒260-8701 千葉市中央区大巖寺町200  
TEL 043-265-9879 FAX 043-265-7339  
E-mail: asiainst@soc.shukutoku.ac.jp  
印刷所 株式会社 白鷗社  
〒170-0002 東京都豊島区巢鴨1-14-10

ISSN 2433-9415

